当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

英国内務省

国別指針及び情報報告書

イラン：性的指向、性自認及び表現

第 3.0 版

2019 年 6 月

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

序文

目的

本報告書は、特定の種類の保護及び人権の申立て（[申立ての根拠](#)のセクションに設定されるとおり）を取り扱う内務省の認定権者が使用するための出身国情報（country of origin information : COI）及び COI の分析を提供する。特定の主題又はテーマの網羅的な調査となることを意図するものではない。

本文は、主な 2 つのセクションに分割される。(1) COI 及びその他の証拠の分析及び評価、及び (2) COI である。これらは以下により詳細に説明される。

評価

本セクションは、本報告書に関連する証拠—すなわち、COI セクション、難民／人権法及び政策、及び、適用する判例法—を分析する。それは、そのこと並びにその相互関係を記述すること、及び、**一般には**、下記についての評価を提供することによる。

- ある人が、迫害又は重大な危害という現実のリスクに晒される合理的可能性が高いかどうか
- ある人が、国家（又は準国家機関）から保護を受けることが可能かどうか
- ある人が、国内又は領土内において移住することが合理的に可能かどうか
- 申立ては、庇護、人道的保護又はその他の形態の許可を与えることを正当化する可能性が高いかどうか、及び
- 申立てが却下された場合には、2002 年国籍、移民及び庇護法（Nationality, Immigration and Asylum Act 2002）の第 94 条の下に「明らかに根拠のないものである」として証明される可能性が高い又は低いかどうか。

認定権者は、しかしながら、なおも全ての申立てを、各事案の具体的な事実を考慮に入れた上で、個別に考察しなければならない。

出身国情報

本報告書における出身国情報は、2008 年 4 月付けの、[出身国情報 \(COI\) を処理するための共通 EC \[欧州連合\] ガイドライン](#)、並びにオーストリア難民出身国及び庇護研究ドキュメンテーションセンター（Austrian Centre for Country of Origin and Asylum Research and Documentation : ACCORD）、[出身国情報調査—2013 年研修マニュアル](#)に提供される COI 調査の一般原則に基づいて、入念に選択されたものである。すなわち、COI の関連性、信頼性、正確性、客観性、最新性、透明性及び追跡可能性を考慮に入れたものである。

出身国情報のセクションの構成及び内容は、本報告書に関連する一般的及び個別のトピックスを設定する[考慮事項](#)に従っている。

本報告書に含まれる全ての情報は、出身国情報のセクションにおける締切日、又は、それ以前に公表されている、又は、公的に利用可能である。この日付以後に発生したいかなる出来事も、また公表されたいかなる報告書／記事も含まれない。

全ての情報は公的にアクセス可能である、又は公的に利用可能であり、全般的に信頼できる情報源からのものである。それらが提供する情報源及び情報は、本報告書に含める前に入念に考察されている。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

情報源及び情報の信頼性の評価に関連する要素には、以下が含まれる。

- 情報源の動機づけ、目的、知識及び経験
- 情報がどのようにして入手されたか、それには使用された具体的な方法が含まれる
- 情報の最新性及び詳細、及び
- COI は他の情報源と首尾一貫するか、及び／又は、他の情報源により確認されているか。

情報が正確であること、客観性がありそして確認されていること、それにより公表の時点において本報告書に関連する事項について、包括的で最新化された姿が提供されることを確実にするために、複数の情報源が使用されている。

情報は、ある範囲の見解及び意見を提示するために、可能な限り、比較、対照されている。情報源を含めることは、しかしながら、その情報又は表明された何らかの見解を是認するものではない。

それぞれの情報は、脚注において参照することができる。本報告書を作成するにあたり引用された、又は参照された全ての情報の完全な詳細は、[参考文献](#)にアルファベット順に列挙されている。

フィードバック

我々の目標は、提供する資料を継続的に改善することである。したがって、本報告書にコメントを寄せたい場合には、[出身国政策・情報チーム](#)まで電子メールを送信していただきたい。

出身国情報に関する第三者諮問グループ

[出身国情報に関する第三者諮問グループ](#) (Independent Advisory Group on Country Information : IAGCI)

は、内務省が作成した COI のアプローチの効率性、効果性及び一貫性の審査において、国境・出入国管理独立首席視察官を支援するために 2009 年 3 月に設立された。

IAGCI は、内務省の COI 資料に関するフィードバックを歓迎する。いかなる内務省の資料、手順又は方針についてそれを是認することは、IAGCI の職務ではない。

IAGCI の連絡先：

出身国情報に関する第三者諮問グループ

国境・出入国管理独立首席視察官

5 階

Globe House

89 Eccleston Square

ロンドン、SW1V 1PN

E メール：chiefinspector@icibi.gov.uk

IAGCI の業務に関する情報及び IAGCI により審査されている文書類のリストは、[gov.uk.website](#) の独立首席視察官のページにおいて参照することができる。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

目次

評価	6
1. 序論	6
1.1 申立ての根拠	6
1.2 指摘すべきポイント	6
2. 問題の考察	6
2.1 信頼性	6
2.2 難民条約の根拠	6
2.3 除外事項	7
2.4 リスクの評価	7
2.5 保護	8
2.6 国内移住	9
2.7 認証	9
出身国情報	10
3 法的状況	10
3.1 刑法	10
3.2 刑罰	10
3.3 Livat (Sodomy [アナルセックス])	11
3.4 Tafkhiz (性的前戯)	12
3.5 Musaheqeh (同性間性的行為)	12
3.6 その他の同性の性的行為に対する刑罰	12
3.7 4回目の有罪判決に関する死刑	13
3.8 トランスジェンダーの人々	13
4. 国家当局の姿勢及びそれによる処遇	14
4.1 ゲイ及びレズビアン	14
4.2 トランスジェンダーの人々	19
5. 社会の姿勢と処遇	22
5.1 社会の処遇	22
5.2 家族の処遇	24
5.3 子どもたちと若者たち	28
5.4 「秘密のプライド (Secret Pride)」	29
6. サービスへのアクセス	30
6.1 性的保健サービス	30
6.2 トランスジェンダーの人々	31
6.3 教育	32
7. LGBT グループ、市民社会及び人権 NGO	32
考慮事項	34
参考文献	35

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

引用された出典.....	35
参照されたが引用されない出典	37
バージョン管理	39

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

評価

更新日：2019年4月1日

1. 序論

1.1 申立ての根拠

1.1.1 その人の実際の又はそうと認められる性的指向及び／又は性自認若しくは表現のために、国家及び／又は非国家主体により、迫害される又は重大な危害を被るおそれ。

1.2 指摘すべきポイント

1.2.1 本報告書は、ゲイ、レズビアン、両性愛（バイセクシャル）、トランスジェンダー、インターセックスの人々についての一般的状況の評価を提供する。彼らをこれ以降集合的に「LGBTIの人々」と総称するが、各グループの経験は異なる可能性がある。ただし、照会された情報源においては、いかなる個別の情報も、インターセックスの人々については言及していない。

1.2.2 認定権者はまた、[庇護の申請における性自認の問題](#)と[庇護の申請におけるインターセックスの問題を含む性自認及び表現の問題](#)において、庇護の指示書を参照しなければならない。

[目次に戻る](#)

2. 問題の考察

2.1 信頼性

2.1.1 信頼性の評価に関する情報については、[信頼性の評価及び難民認定に関する庇護の指示書](#)を参照されたい。認定権者はまた、[庇護の申立てにおける性自認の問題](#)及び[庇護の申立てにおけるインターセックスの問題を含む性自認及び表現](#)における庇護の指示書も参照しなければならない。

2.1.2 認定権者はまた、UK ビザ又は他の形態の許可が以前に申請されているかについても確認しなければならない。ビザに一致する庇護申請は、庇護インタビューの前に調査されるべきである（[ビザの一致に関する庇護についての指示書](#)、[英国ビザ申請者の庇護請求](#)参照）。

2.1.3 認定権者はまた、言語分析テストを実施することの必要性についても検討すべきである（[言語分析に関する庇護についての指示書](#)参照）。

[目次に戻る](#)

2.2 難民条約の根拠

2.2.1 イランのLGBTIの人々は、難民条約の意味の範囲内において特定の社会的グループ（particular social group：PSG）を形成する。なぜなら、彼らは変えることのできない体質又は共通の背景を共有しているため、又は彼らのアイデンティティ若しくは意識において極めて基本的であるためにそれを放棄することを強要されるべきではない、特性あるいは信念を共有しているため、そして周囲の社会とは異なる存在であると知覚される、明確なアイデンティティを有するためである。

2.2.2 条約の根拠を確立することだけでは、難民として認定されるには十分ではない。問題は、特定の人がそのようなグループのメンバーシップによって、現実的な迫害のリスクに直面するかどうかである。

2.2.3 特定の社会的グループに関する更なるガイダンスについては、[信頼性の評価及び難民認定に関する指示書](#)を参照されたい。

[目次に戻る](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

2.3 除外事項

2.3.1 認定権者は、除外事項の内の1つ（又はそれ以上）が適用するかどうかについて考察しなければならない。各事案は、その個別の事実及び利点に基づいて考察されなければならない。

2.3.2 除外事項及び制限付き許可に関する更なるガイダンスについては、[除外に関する庇護の指示書：難民条約第1F条及び制限付きの許可に関する庇護の指示書](#)を参照されたい。

2.4 リスクの評価

a. 全般的なポイント

2.4.1 [HJ（イラン）及びHT（カメルーン）対内務大臣 \[2010\] UKSC 31](#)における最高裁判所の判決の決定の paragraph 82 及び 35 は、そのような申立てを評価する際に使用するアプローチを規定し、適用されるべきテストを確立した。

2.4.2 更なる情報については、[庇護の申立てにおける性的指向並びに庇護の申立てにおけるインターセックスの問題を含む性自認及び表現](#)に関する庇護政策の指示書を参照されたい。

[目次に戻る](#)

b. LGB の人々の国家の処遇

2.4.3 イスラム刑法（Islamic Penal Code：IPC）は同性の性的関係を犯罪化する。刑罰は、鞭打ちの刑から死刑までの範囲にある。刑罰は、ゲイの男性たちについては、被告人が能動的であるか又は受動的パートナーであるかによって違いがあり、また彼らの結婚歴にも依存する。4度目の有罪判決により、死刑とされることもある。レズビアンは、有罪とされた場合、100回の鞭打ちの刑を受ける、又は4度目の有罪判決の場合には死刑判決を受ける可能性もある（[法的状況](#)参照）。

2.4.4 信頼できる情報が乏しいため、同性愛行為によって告発され刑罰を受けた人々が、実際イランのLGBコミュニティのメンバーであるか、又は政府によりゲイであるとの枠にはめられている者であるかどうかを決定することは極めて困難である。同性愛についての刑罰の執行の頻度を確認することも同様に困難であるが、しかしそれは減少しつつあるとの兆候もある（[国家当局の姿勢とそれによる処遇](#)参照）。

2.4.5 実際のところ、警察及びバシジ（Basij）[道徳警察]を含むイランの治安部隊は、レズビアン、ゲイ及び両性愛（バイセクシャル）であると疑われる人々に対する嫌がらせ、逮捕、及び拘禁のために差別的な法律をよりどころとする。LGBの人々は、政府当局による、殴打、中傷、レイプ、性的暴力及び拷問を含む様々な虐待に直面する（[国家当局の姿勢とそれによる処遇](#)参照）。

2.4.6 報告書はまた、政府はLGBの人々の強制的「是正措置」を拡大しつつあることを示している（[国家当局の姿勢とそれによる処遇](#)参照）。

2.4.7 国家は、人権NGOがイランにおいて登録し、活動することを困難にしており、またLGBTIの人々を擁護する活動的なNGOに関する報告書はない（[LGBTグループ、市民社会及び人権NGO](#)参照）。

[目次に戻る](#)

c. トランスジェンダー及びインターセックスの人々の国家の処遇

2.4.8 法律は、トランスジェンダーの人々を精神的に病んでいる人と定める。政府は、性別適合手術を受けるために何らかの財政支援を提供する一方で、LGBの人々の中には、彼らの性自認に基因する法的及び社会的影響を回避するために性別適合手術を受けるよう助言された人もおり、また性別適合手術を

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

強制又は強要されたという報告もある。その人の意思に反して性別適合手術を行うことは迫害に等しい（[法的状況](#)参照）。

2.4.9 トランスジェンダーであると認定されず、性別適合手術を受けられないことは、その人が同性愛者であると認識されるリスクがある。彼らは、差別の対象となり、恣意に逮捕及び拘禁され、拷問及びその他の形態の虐待を受けるという現実的なリスクに晒される。このような扱いは同様に迫害に等しいものである。

2.4.10 イランの治安部隊は、しばしばトランスジェンダーの人々を同性愛者とみなし、嫌がらせをし、また虐待する（[国家当局の姿勢とそれによる処遇](#)参照）。

[目次に戻る](#)

d. LGBTI の人々の社会の処遇

2.4.11 一般に、イランの社会は LGBTI の人々を受け入れない。多くの人々は、家庭内暴力、社会的差別、虐待、嫌がらせ、及び、ある場合には身体的攻撃を経験する。レズビアンは特に、家族による「名誉」殺人、放棄の対象となりやすい。LGB のコミュニティのメンバーに対するヘイトクライムの非があるとされる者たちを告発する刑事司法制度は存在しない（[社会の姿勢と処遇](#)参照）。

2.4.12 トランスジェンダーの人々もまた、嫌がらせ、差別及び身体的攻撃のリスクに晒される（[社会の姿勢と処遇](#)参照）。

[目次に戻る](#)

e. 結論

2.4.13 一般に、自らの性的指向及び／又は性自認若しくは表現を公けにしている LGBTI の人々は、差別、虐待及び国家主体からの告発並びに社会主体からの差別及び虐待に直面する可能性が高いが、それはその性質と繰り返しの点で迫害に等しいものである。さらに、LGBTI の人々がこのように公けにせず、またその重要な理由が、彼らが公けにした場合にその結果として生ずる迫害に対する恐怖である場合、彼らもまた難民とみなされるべきである。

2.4.14 それぞれのケースはその事実に基づいて考察される必要があるが、ただし、彼らがそのようなリスクに直面してことを表明することは本人の責任である。

2.4.15 更なるガイダンスについては、[信頼性の評価及び難民認定に関する庇護の指示書](#)を参照されたい。

2.4.16 認定権者はまた、[庇護の申立てにおける性的指向](#)及び[庇護の申立てにおける性自認の問題](#)に関する庇護の指示書を参照しなければならない。

[目次に戻る](#)

2.5 保護

2.5.1 ある人に、国家からの迫害について正当な根拠を有するおそれがある場合には、その人は当局から保護を受けることはできないだろう。

2.5.2 ある人に、非国家主体からの迫害について正当な根拠を有するおそれがある場合には、認定権者は国家が有効な保護を提供できるかどうかについて評価しなければならない。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

2.5.3 上に述べたように、イランの治安部隊は LGBTI であると疑われる人々に嫌がらせ、逮捕及び拘禁を行うが、反 LGBTI 暴力に対して保護する法律はない。暴力及び／又は脅迫に晒されている人々は、彼ら自身が刑法により告発されるという恐怖から、これらの攻撃を報告することを望まない。

2.5.4 その結果、国家は、可能ではあるが効果的な保護を提供することを望んでいないように思われ、またその人は国家による保護を利用することができない。

2.5.5 ある人が保護を求めることを躊躇するという事は必ずしも、有効な保護が利用可能でないという意味ではない。認定権者は、それぞれのケースを事実に基づいて考察しなければならない。なぜ国家による保護を求め、受けることができないかについて表明することは、本人の責任である。

2.5.6 [イランの国別指針及び情報報告書：保護主体及び国内移住を含む背景情報](#)に関する国別指針及び情報報告書もまた参照されたい。

2.5.7 有効な保護の利用可能性の評価に関する更なるガイダンスについては、[信頼性の評価及び難民認定に関する庇護の指示書](#)を参照されたい。

[目次に戻る](#)

2.6 国内移住

2.6.1 ある人に、国家からの迫害について正当な根拠を有するおそれがある場合には、その人はそのリスクから逃れるために国内移住することはできない。

2.6.2 ある人に、非国家主体からの迫害について正当な根拠を有するおそれがある場合には、認定権者はその脅威が地域的なものであり、国内移住することによって回避できるものであるかどうかについて確認するために、それぞれのケースの個々の状況について考察すべきである。

2.6.3 性的指向を公表せず、また目立つ行動を控えている同性愛及び両性愛（バイセクシャル）の人々は、社会の中で自由に移住することができるということを示唆するいくつかの裏付けもある。

2.6.4 国内移住は、提案される新しい居住地において、彼らが性的指向及び／又は性自認を迫害の恐怖のために隠す（又は、控えめな表現をする）ことに依存するのであれば、選択肢にはならない。

2.6.5 [イランの国別指針及び情報報告書：保護主体及び国内移住を含む背景情報](#)に関する国別指針及び情報報告書もまた参照されたい。

2.6.6 国内移住について考慮すること及び考慮されるべき要素に関する更なるガイダンスについては、[信頼性の評価及び難民認定に関する庇護の指示書](#)を参照されたい。

[目次に戻る](#)

2.7 認証

2.7.1 申立てが拒否される場合、2002 年国籍、移民及び庇護法の第 94 条の下に「明らかに根拠のないものである」とされ、認証される可能性は低い。

2.7.2 認証に関する更なるガイダンスについては、[2002 年国籍、移民及び庇護法の第 94 条（明らかに根拠がない申立て）](#)を参照されたい。

[目次に戻る](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

出身国情報

セクション3 更新日：2019年4月1日

3 法的状況

3.1 刑法

3.1.1 中東及びアフリカにおけるインターネットの自由を支持し、人権を擁護するために活動する組織である Small Media により記述された、「沈黙を破る—イランにおけるデジタル・メディア及び LGBTQ の権利のための闘争」と題する報告書は、以下を指摘している。

「当初 1991 年に採択され 2013 年に修正されたイランの刑法 (Iranian Penal Code : IPC) は、イランの司法に関係する主要な法体系である。その 5 巻からなる法律に含まれるのは、同性の性的関係を禁止し、法に違反する市民に対する厳しい刑罰を義務付ける条項の集積である。」

「IPC は、多数の異なる性的行為を区別し、それぞれに対して異なる刑罰を規定している。受動的なパートナーに対する刑罰は、能動的パートナーに対するそれよりも厳しいものであるが、能動的パートナーが、本人はイスラム教徒である場合にイスラム教徒と性的関係を持って捕らえられた場合には、その者も死刑に処せられる可能性がある」。¹

3.1.2 「6Rang」として知られる、イラン・レズビアン・トランスジェンダーネットワークもまた、「『同性愛者の権利を侵害することは偉大な名誉である』—イランにおける LGBT の人々に反対する公式なヘイトスピーチ」という主題による 2017 年 12 月の報告において、以下のように述べている。

「イランのイスラム刑法は、同性間の性的行為を犯罪化し、その刑罰は鞭打ち刑から死刑までの範囲にわたる (第 233~240 条)。これらの刑罰は 18 歳未満の子どもたちにも適用する。なぜなら、イランにおける刑事責任の年齢は、少女に対しては太陰年 9 歳及び少年に対しては太陰年 15 歳 (第 147 条) であるからである。」²

3.1.3 さらに、2019 年 3 月 14 日に公表された、「2018 年の米国国務省の人権慣行に関する国別報告書、イラン (USSD イラン 2018HRP 報告書)」は、以下のように述べている。

「法律は、同意に基づく同性同士の性的行為を犯罪化し、それは死刑、鞭打ち刑、又はそれより軽い刑罰に処せられる。法律は、同意による同性愛性的行為及び不同意によるそれを区別していない、そして NGO は、暴行の場合に、この明確さの欠如が、被害者と加害者の両方が刑事責任を問われることにつながっていると報告した。法律は、性的指向及び性自認に基づく差別を禁止していない。」³

[目次に戻る](#)

3.2 刑罰

3.2.1 主な種類の刑罰は、イランの刑法、第 1 巻、第 2 部、第 1 章に包含されている。

第 14 条—この法律に記載される刑罰は、4 つのカテゴリーに区分される。

¹ Small Media、「沈黙を破る」2018 年 5 月、[url](#)

² 6Rang、「イランにおける LGBT の人々に反対する公式なヘイトスピーチ」2017 年 12 月、[url](#)

³ USSD、「イラン 2018 年人権報告書」2019 年 3 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

- (a) Hadd (厳重な処罰)
- (b) Qisas (同害報復的刑罰)
- (c) Diya (金銭的補償)
- (d) Ta'zir (訓戒のための処罰)

第 15 条—Hadd とは、執行の根拠、種類、量刑及び条件が聖シャリーア法に規定される刑罰である。

第 16 条—Qisas とは、生命、手足、及び機能に対する意図的な身体的犯罪に対する主な刑罰であり、本法の第 1 巻に従って適用するものとされる。

第 17 条—Diya とは、額が固定されるにしても固定されないにしても、聖シャリーア法の下における金額であり、それは法律により決定され、生命、手足、及び機能に対する意図的ではない身体的犯罪に対して、又は何らかの理由により Qisas が適用されない意図的な犯罪に対して支払われるものとされる。

第 18 条—Ta'zir とは、Hadd、Qisas、又は Diya のカテゴリーに入らない刑罰であり、そしてそれはシャリーア法の下における禁止行為の実行又は国家の規則違反に対して、法律により決定される。Ta'zir 犯罪の執行の種類、量刑、条件並びに減刑、猶予、撤回及びその他の関連規則は、法律により決定されるものとする。Ta'zir 犯罪において判決を下すにあたっては、裁判所は法的規則を遵守する一方、以下の事項を考慮に入れるものとする。

- (a) 犯罪者の動機及び罪を犯した時点における犯罪者の精神的及び心理的状态
- (b) 罪を犯した手段、規則違反の範囲及びその有害な影響
- (c) 罪を犯した後の犯罪者の行動
- (d) 犯罪者の個人的、家族の、及び社会的背景及び Ta'zir 刑罰が犯罪者に及ぼす影響。⁴

3.2.2 新イスラム刑法 (IPC) (2013) の第 1 巻及び第 2 巻の全英訳は、イラン人権記録センターのウェブサイトで見ることが出来る。⁵

[目次に戻る](#)

3.3 Livat (Sodomy [アナルセックス])

3.3.1 イランの刑法の第 233 条は、Livat (Sodomy [アナルセックス]) を「男性性器 (ペニス) の割礼痕までの他の男性の肛門への挿入」と定義している。⁶

3.3.2 IPC の第 234 条は、Livat (Sodomy [アナルセックス]) に対する刑罰を規定しており、また能動的なパートナーと受動的なパートナーについての処置における差異を強調している。

第 234 条 — Livat (Sodomy [アナルセックス]) に対する Hadd 刑罰は、挿入側/能動的の当事者については、当事者が腕力、強制を用いて犯行に及んだ場合、又は Ihsan [定義については注 2 参照] の条件に合致する場合には死刑とする。その他の場合には、100 回の鞭打ち刑に処せられるものとする。

⁴ IHRDC、「新イスラム刑法の第 1 巻及び第 2 巻」、2014 年 4 月 4 日、[url](#)

⁵ <https://iranhrdc.org/english-translation-of-books-i-ii-of-the-new-islamic-penal-code/>

⁶ IHRDC、「新イスラム刑法の第 1 巻及び第 2 巻」、2014 年 4 月 4 日、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

受け入れ側／受動的の当事者に対する Hadd 刑罰は、いずれのケースにおいても（当事者が Ihsan の条件に合致するか否かにかかわらず）死刑とする。

注 1—挿入側／能動的の当事者が非イスラム教徒であり、受け入れ側／受動的の当事者がイスラム教徒である場合には、挿入側／能動的の当事者に対する Hadd 刑罰は死刑とする。

注 2—Ihsan とは、ある男性が恒久的に生殖機能を有する妻と結婚している状態と定義される。⁷

[目次に戻る](#)

3.4 Tafkhiz（性的前戯）

3.4.1 IPC の第 235 条は、Tafkhiz（性的前戯）を、「男性の性器（ペニス）を他の男性の太ももの間又は臀部に接触させること」と定義している。第 235 条の但し書きは、挿入が割礼痕に達しない場合、その性行為は性的前戯とみなされると記述している。⁸

3.4.2 Tafkhiz（性的前戯）に対する刑罰は IPC の第 236 条に規定されている。Livat（Sodomy [アナルセックス]）の場合とは異なり、能動的パートナーと受動的パートナーとの間の区別はない。刑罰は、一方が既婚者であるかどうかにかかわらず、また一方が行為に関与するよう強要されたかどうかにかかわらず、双方に対して同一である。Tafkhiz（性的前戯）について有罪であるとみなされた場合には、双方のパートナーは 100 回の鞭打ち刑に処せられる。ただし、これに対する唯一の例外は、能動的パートナーが非イスラム教徒であり、そして受動的パートナーがイスラム教徒の場合である。この場合には、非イスラム教徒である能動的パートナーは死刑に処せられる⁹。

[目次に戻る](#)

3.5 Musaheqeh（同性間性的行為）

3.5.1 IPC の第 238 条は、Musaheqeh（同性間性的行為）を、「1 人の女性が自身の性器を同性のもう 1 人のパートナーの性器に接触させること」と定義している。

3.5.2 IPC の第 239 条は、Musaheqeh（同性間性的行為）の刑罰は 100 回の鞭打ち刑であると述べている。第 240 条は、能動的当事者と受動的当事者の間、イスラム教徒と非イスラム教徒との間、又はその者が既婚であろうと未婚であろうと、刑罰には変わりがないことを示している。さらには、強制されて性的行為に関与した人たちについても差異はない。¹⁰

[目次に戻る](#)

3.6 その他の同性の性的行為に対する刑罰

3.6.1 その他の性的行為については、IPC の第 237 条で論じている。本条によれば、Sodomy と Tafkhiz の他に、快樂のためのキスや接触などの、その他の同性愛行為も同様に禁じられている。[…] 彼らは 31 回から 74 回までの鞭打ちの刑に処せられる。この規定は、男性、女性の両方に適用される。シャリーア法は、このカテゴリーに該当する犯罪に対する刑罰を特定していない。そのため、IPC に規定される鞭打ちの刑は、訓戒のための処罰（Ta'zir）と言及される。¹¹

⁷ IHRDC、「新イスラム刑法の第 1 巻及び第 2 巻」、2014 年 4 月 4 日、[url](#)

⁸ IHRDC、「新イスラム刑法の第 1 巻及び第 2 巻」、2014 年 4 月 4 日、[url](#)

⁹ IHRDC、「新イスラム刑法の第 1 巻及び第 2 巻」、2014 年 4 月 4 日、[url](#)

¹⁰ IHRDC、「新イスラム刑法の第 1 巻及び第 2 巻」、2014 年 4 月 4 日、[url](#)

¹¹ IHRDC、「否定されたアイデンティティ」2013 年 11 月 7 日、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

[目次に戻る](#)

3.7 4 回目の有罪判決に関する死刑

3.7.1 IPC の第 136 条は、フドゥド (Hodud) のカテゴリーにおけるいずれの犯罪も、4 回目に有罪判決となった者は、各々の判決後に鞭を打たれた後に死刑となると述べている。最初の刑罰の後に処刑されるアナルセックスの受動的パートナーを例外として、第 136 条はアナルセックスの積極的パートナー、性的前戯で起訴された男性、及び女性の同性間性行為で起訴された女性は、4 回目の有罪判決で死刑に処される。ただし、この反復性違反者の制度は、快樂のためのキスや接触などの「その他の同性による性行為」で有罪判決を受けた者に適用されない¹²。

[目次に戻る](#)

3.8 トランスジェンダーの人々

3.8.1 2016 年に、「イランにおいてトランスジェンダーであること」と題するアウトライト・アクション・インターナショナル (OutRight Action International) により作成された報告書は、次のように述べている。

イラン政府はトランスジェンダーの人々を表現するのに、「ジェンダー・アイデンティティ障害」という用語を公式に使用している。

ジェンダー・アイデンティティに関する問題の医療化は、トランスジェンダーのコミュニティのメンバーに対して何らかの法的認定を許容しているが、それはまたトランスジェンダーの人々が心理的及び性的障害を持ち、そして「正常」となるための治療を必要とするという概念に根差す汚名を強めることにもなる。

LMO [Legal Medicine Organization (法医学庁)] の心理学者である Mahdi Saberi 博士は、トランスジェンダーの経験は精神的疾患とみなされるかとりポーターにより問われ、次のように述べた。

「そうです。しかし私が明確にしなければならないのは、それはその人に奇妙な行為をさせるような重大な精神障害であることを意味するものではない、ということです。広範囲にわたる精神障害があり、あるものは極めて微妙であり、診断が困難です…

ジェンダー・アイデンティティ障害は、長期にわたり診断されることのできない障害の 1 つです。」

[...] 国家及び医療コミュニティの多くのメンバーは、トランスジェンダーを病気であると見ているので、トランスジェンダーの経験を、ホルモン補充療法及び手術により「治療」されるべき状態であるとみなしている。「Purgatory of the Body (身体の煉獄): イランにおける性転換手術の記憶」の著者である Dr. Cohanad は、次のように指摘している。「性転換症は、心理療法では治療できない。そのように主張する人たちはまったく無教育である。ジェンダー・アイデンティティ障害は、手術によってのみ治療することができる。」¹³

3.8.2 USSD イラン 2018 年人権慣行に関する報告書 (HRP) は、以下のように述べている。「法律は、18 歳を超える全ての男性国民に兵役を要求しているが、精神障害を有すると分類されるゲイ及びトランスジェンダーの女性は免除している。」¹⁴

¹² IHRDC、「否定されたアイデンティティ」2013 年 11 月 7 日、[url](#)

¹³ アウトライト、「イランにおいてトランスジェンダーであること」、2016 年 10 月、[url](#)

¹⁴ USSD、「イラン 2018 年人権報告書」2019 年 3 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

3.8.3 前述のアウトライト・アクションの報告書もまた、次のように述べている。「...トランスジェンダーの人々の兵役免除は「第5章：精神疾患」に述べられるが、それは統合失調感情障害、妄想性障害、統合失調症、及びある種の知的並びに発達性障害などの精神的及び心理的状态を包含している。」

15

[目次に戻る](#)

セクション 4 更新日：2019 年 4 月 1 日

4. 国家当局の姿勢及びそれによる処遇

4.1 ゲイ及びレズビアン

4.1.1 USSD イラン 2018 年人権慣行に関する報告書 (HRP) は、以下のように指摘している。治安部隊は、LGBTI であると疑われる人々に嫌がらせ、逮捕、及び拘禁を行っている。ある場合には、治安部隊は家屋を強制捜査し、LGBTI の人々の情報を得るためにインターネット・サイトを検査した。Sodomy (アナルセックス) により告発された人々は、頻繁に略式裁判にかけられ、その証拠の基準には必ずしも合致していなかった。イランの LGBTI 活動家グループ 6Rang は、そのような状態において逮捕された人々は伝統的に強制アナルすなわち Sodomy (アナルセックス) 検査を受けたが、国連世界保健機構はそれについて、拷問、及びその他の悪質な処置及び性的侮辱を構成する可能性がある」と述べた。男性同士の同性間性的行為に対する刑罰は、女性同士によるものより苛酷であった。国連特別報告者 (UNSR) ジャハンギールは、3 月に、LGBTI の人々の継続的な差別、嫌がらせ、恣意による逮捕及び拘禁、並びに人権の否定の報告を受けていると報告した。

政府は、LGBTI の状況及び行為に関する全ての資料を検閲した。当局は特に、LGBTI の問題を論じるウェブサイト又はサイトの内容をブロックしたが、これには LGBTI 及びその他の関連トピックスを明記するウィキペディア (Wikipedia) のページも含まれる...このバイアス動機による犯罪を起訴することに役立つヘイトクライム法又はその他の刑事司法制度は存在しない。¹⁶

4.1.2 報告書は以下のように論述を続ける：

「6Rang の 5 月の報告書によれば、LGBTI の人々の「矯正治療」に関わっていると伝えられる民間及び半官の精神心理クリニックの数は、今年中増加し続けている。6Rang は、そのようなクリニックによる LGBTI の人々の手と性器への電気ショック療法の使用、向精神薬の処方、催眠療法、異性の写真に向けての強制的自慰の増加を報告している。これらの慣行の多くは、国際法の下では、拷問又はその他の残酷な、人道的ではない、若しくは悪質な治療となる可能性がある。」¹⁷

4.1.3 イラン・レズビアン、トランスジェンダーネットワーク (6Rang) は、2011 年から 2017 年までの間に、ゲイ及びレズビアンの人々に関して、多くの公式な声明を調査した。「『同性愛者の権利を侵害することは偉大な名誉である』—イランにおける LGBT の人々に反対する公式なヘイトスピーチ」という主題により、2017 年に公表された報告は、以下の結論を導いている。

¹⁵ アウトライト、「イランにおいてトランスジェンダーであること」、2016 年 10 月、[url](#)

¹⁶ USSD、「イラン 2018 年人権報告書」2019 年 3 月、[url](#)

¹⁷ USSD、「イラン 2018 年人権報告書」2019 年 3 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

イランにおいては、LGBTの人々…は頻繁に嫌がらせ、差別、恣意による逮捕及び拘禁、拷問並びにその他の虐待の対象となった。[…] もし彼らが同意による同性間性的行為に関与したとして有罪判決を受けるとすれば、彼らはまた鞭打ち刑から死刑までの範囲にわたる刑罰に直面する可能性がある。性的指向及び性自認に基づく人権侵害についての彼らのカタログの一環として、イラン当局は一貫して人々を彼らの性的指向に基づいて貶め、また人道に反する憎しみの表明を行っている。同性愛の人々は、公的な声明及び国家による情報発信において定期的に、「不道德」、「墮落」、「動物的」、「人間以下」、「病氣」及び「病的」と表現されている。彼らはまた、イスラム革命を転覆させ、イスラム人口を崩壊させることを意図する、西欧により組織化されたシオニストの陰謀における共謀者として糾弾されている。¹⁸

4.1.4 ガーディアン (The Guardian) による、「ゲイ及びトランスジェンダーとして存在することが最も困難な場所は世界のどこか？」と題する 2017 年 3 月の記事は、次のように述べている。「イランのリーダーたちは、同性愛を [モラルの破綻] 又は [近代西欧の野蛮主義] と表現している。アムネスティ・インターナショナルは、1979 年のイラン革命以来、5,000 人のゲイ及びレズビアンが処刑されていると推定している。現在ではそれは一般的ではないが、しかしなおも行われている。」¹⁹

4.1.5 2016 年 8 月 2 日、アムネスティ・インターナショナルは、Hassan Afshar という名前の 1 人の 19 歳の男性が、2015 年の初頭に「lavat-e be onf」（男性同士の強制的性行為）の罪で有罪判決を受けたのちに、2016 年 7 月 16 日に処刑されたと報告した。報告書は、次のように述べている。

「Hassan Afshar は、当局が申立て人から、彼とその他 2 人の若者が 10 代の少年に性行為を強要したという告訴状を受け取ったのち、2014 年 12 月に逮捕された。Hassan Afshar は、性行為は同意の下であり、そして申立て人の息子は以前に同性間性的行為に進んで関与していたと主張し続けた。」²⁰

4.1.6 この事件に関するアムネスティ・インターナショナルによるプレス発表は、次のように述べている：

イランにおいては、同性間のアナルセックスに関与した成人男性及び少年たちは、「能動的」パートナーか又は「受動的」パートナーかに応じて、また行為が同意による又は不同意によると特徴付けられることによって、イランの刑法の下では異なる刑罰に処される。

それが同意によるとみなされた場合には、「受動的」パートナーは死刑に処せられる。「能動的」パートナーは、しかしながら、彼が既婚者である、又は彼がイスラム教徒ではなく、しかも「受動的」パートナーがイスラム教徒である場合にのみ死刑を宣告される。性行為が不同意によるとみなされた場合には、「能動的」パートナーは死刑判決を受けるが、「受動的」パートナーは刑罰が免除され、被害者として扱われる。

¹⁸ 6Rang、「イランにおける LGBT の人々に反対する公式なヘイトスピーチ」2017 年 12 月、[url](#)

¹⁹ ガーディアン (The Guardian)、「ゲイ又はトランスジェンダーとして存在することが最も困難な場所」、2017 年 5 月 1 日、[url](#)

²⁰ アムネスティ・インターナショナル、「絞首刑は国際法に対する違反であることを示す」2017 年 8 月 2 日、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

この法的枠組みは、アナルセックスを望んだ「受動的」パートナーが、当局により標的にされた場合に、死刑を回避するために、同意による性行為をレイプと特徴付けることもやむを得ないと感じる状況を創出するというリスクを伴う。²¹

4.1.7 アムネスティ・インターナショナル²²及び、NBC ニュース²³を含む、その他の多くの情報筋は、2017年8月における Alireza Tajiki の死刑執行を報じたが、この者は21歳であり、男性同士の強制アナルセックス及び殺人により有罪とされ死刑を宣告されていたものである。

4.1.8 2019年1月、デイリー・メールは、イランが31歳の男性を反ゲイ法に違反したことによって処刑したと報じた。ニュース記事は以下のように述べている。

「イランは31歳の男性を、イランの反ゲイ法に違反し、また2人の子どもを誘拐したことにより有罪と評決した後に公開絞首刑に処した。」

「氏名不詳の男がイラン南部の都市 Kazeroon において、ゲイの性行為をしたことにより有罪判決を受けた後に絞首刑に処された—この犯罪は国家による厳格なシャリーア法の下では死刑に処することが可能である。」

「イラン学生通信社 (Iranian Student's News Agency) は、その男は2人の15歳の少年を誘拐したと報じたが、ゲイの性行為の罪状が誘拐に関連するかどうかについては直ちに明確とはなっていない。」²⁴

4.1.9 この処刑はまた、FOX ニュース²⁵及び Iran Human Rights (IHR) ²⁶と呼ばれる独立人権団体を含む、他の情報筋によっても扱われている。

4.1.10 アウトライト・アクション・インターナショナルの、イランの Sodomy 法に関する2012年8月14日付けの報告書—「行間を読む」は、次のように指摘している。

「レイプ及び子どもに対する性的虐待に関するイランの刑法の曖昧さから、また大半の公表されたケースにおいて、レイプ及び／又は子どもに対する性的虐待の実行者として疑われるものは Sodomy 法により有罪とされている事実を考慮すると、有罪とされた人々が真に性的犯罪により有罪であるか、又は同性愛者であるために処罰されるのかについて決定を下すことは可能ではない。

さらに、イランの場合には […], これらの Sodomy であるとして告発された人々が真にゲイであるのか、又は政府によりゲイであると決めつけられたのかを知ることは困難である。驚くことではないが、国際同性愛人権委員会 (International Gay and Lesbian Human Rights Commission : IGLHRC) により最近文書化された事案においては、イラン当局は有罪判決のために必要な4人の男性証人を公式に出頭させるためのいかなる努力も払っていない—したがって、彼らの現在の慣行は、レズビアン及びゲイの社会を真に排除し、恐怖を増大させるという我々の疑いを助長している。」²⁷

²¹ アムネスティ・インターナショナル、「イランは10代の学生を絞首刑にする」、2016年8月3日、[url](#)

²² アムネスティ・インターナショナル、「更新：Alireza Tajiki」、2018年1月12日、[url](#)

²³ NBC News、「イランは Alireza Tajiki を処刑する」、2017年8月10日、[url](#)

²⁴ Daily Mail、「イランは反ゲイ法に違反及び誘拐により男を絞首刑にする」、2019年1月28日、[url](#)

²⁵ Fox News、「イランは反ゲイ法の犯罪により男を絞首刑にする」2019年2月1日、[url](#)

²⁶ IHR、「イランの処刑：男が公開絞首刑にされた」2019年1月10日、[url](#)

²⁷ アウトライト・インターナショナル、「イランの sodomy 法」、2012年8月14日、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

4.1.11 イランの正義（Justice for Iran：JFI）及びイラン・レズビアン、トランスジェンダーネットワーク（6Rang）が2014年に公表した報告書、「病的なアイデンティティ、麻痺した身体：イランにおけるゲイ、レズビアン、及びトランスジェンダーの人々に対する人権侵害」の所見によれば、
「女性であること及び男性であることの文化的に承認されたモデルに適合しなかった、ほとんど全てのレズビアン、ゲイ及びトランスジェンダーのインタビュー対象者は、JFI & 6R に対して、彼らは警察及びバシジ（Basij）のメンバーにより性的に襲撃され、レイプされるという恐怖の中に生きてきたと語った。彼らの内の何人かについてはこの恐怖は真実となった。」

「[...] 2007年以來、民間の団体への国家主体による強制捜査があり、それに続いて「同性愛」を疑われる人々の大量逮捕及び拘禁があったことについて確認されたいくつかの報告書がある。拘禁者らは、殴打され、そしてその他の残酷な、非人道的又は悪質の処置若しくは処罰があり、これには医師による同意なしのアナルの検査も含まれていたと報告されている。多くの場合に、情報部隊がこれらの強制捜査を実行したとされるが、他方で少なくとも西部の都市 Kermanshah における1つのケースにおいては、革命防衛隊の情報ユニットが強制捜査において責任ある粹割を果たした。²⁸

4.1.12 「クィア難民のためのイラン鉄道（Iranian Railroad for Queer Refugees）」グループによる2018年報告書は、以下のように述べている。

「LGBTのイラン人たちは、彼らの性自認を隠すことを強いられていると感じるかもしれない。なぜなら、政府は「公衆道徳」を守るために半官の及び自警組織を設立するための努力を強力に進めているからである。例えば、2004年終期に「全ての隣人及び全ての地域の社会的害悪」並びに「逸脱した個人」を制御するというその目的を存続させるために設立された社会保護部門は、雇用されていない元軍人を募集している。これらの部門は更なる活動として、「司法の訓練部隊」に対する重大なモラルの侵害を報告している。」

「公衆道徳及び同性愛に関する更なる政府規制は2007年に発効された。警察及び民兵として知られる準軍事組織を含むイランの治安部隊は、クィアと疑われる人々に嫌がらせ、逮捕、及び拘禁するために前述の差別的諸法に依存する。この出来事はしばしば公園及びカフェにおいて発生するが、しかしヒューマン・ライツ・ウォッチは、治安部隊が、彼らがジェンダー及び性的不遵守と疑う人々を拘禁する目的のために、家庭を強制捜査し、インターネット・サイトを監視したケースを報告している。」²⁹

²⁸ 6Rang、「レズビアン、ゲイ及びトランスジェンダーの人々に対する人権侵害」、2014年6月、[url](#)

²⁹ IRFQR、「イランのクィア・ウォッチ報告書」、2018年、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

4.1.13 同じ情報源は、「イラン人の LGBT の人々が拘禁の間の肉体的及び心理的虐待の記述を報告している—それには脅迫及び拷問の使用が含まれる。その目的はイランの刑事裁判において同性愛行為の証拠としての自白を引証するためであった。」と述べた。³⁰

4.1.14 オーストリア難民出身国及び庇護研究ドキュメンテーションセンター (ACCORD)、COI が「イラン：女性、子どもたち、LGBTI の人々、障害者、[道徳的犯罪]」と題して、2015 年 12 月付けで編集した文書は、2015 年 5 月にオランダ外務省により着手された国別報告書の非公式な翻訳を特集している。この報告書は、次のように指摘している。

「…自らの性指向を公表せず、目立たないようにしている同性愛及び両性愛の人々は、社会の中で自由に移動することができる。イランでは、しばしば生じることであるが、同性の人々が同居し、そしてこのことは必ずしも同性愛に結びつくものではない。このことは、匿名者がより多い、より大きな都市において特に真実である。」

「過去においては、同性愛の人々の集会場所への定期的な強制捜査があった。しかし、ソーシャルメディア及びオンラインのデートの増大によって、これらのグループはゲイ指向のチャットルーム及びデートサイトに移行するようになった。当局は現在、特定の場所における同性愛の人々の公開された会合を大目に見ている。当局に対して、ゲイ行為が金銭のために提供される会場（例えば、ある種の浴場）として当局に知られる場所でさえも、報告期間においては手つかずに置かれていた。」

「より大きな都市においては、当局は同性愛に対して「火と剣を持って」戦うという政策を追求しない。しかしながら、匿名の情報筋によると、当局は、ひとたび積極的活動があった、又は彼らがある種の活動がイランの悪名を外国にもたらすと信じた場合には、介入すると思われる。」

「確認することができる限り、全ての情報機関、すなわちバシジ (Basij)、革命防衛隊 (Islamic Revolutionary Guard Corps : IRGC) 及び情報サービスは、同性愛行為に関与した人々を追求することが義務付けられている。ある情報筋によれば、バシジ (Basij) は、同性愛行為に関与した人々を追求することに最も積極的であることが知られている。同性愛行為に関する逮捕の大多数は、個人のホームパーティーにおいて行われる。当初はこれらの逮捕は、違法なアルコール摂取、ドレスコード違反及び「墮落」によって正当化されていたであろう。このことは報告期間においては変化していない。」

「同性愛行為により告発された人々との数多くのインタビューは、当局は逮捕及び尋問に際して苛酷な手段を使用することを示していると思われる。脅迫、恐喝、隔離拘禁、レイプ、拷問、(偽りの)自供書に署名することの強要及び鞭打ちなどの違法な処罰が、拘禁及び尋問の際に広く用いられる。ほとんどの場合に、当局は拘禁者に対して、同性愛行為を自供すること及び/又は他の同性愛の人々の身元を明かすことを強要する。」³¹

4.1.15 「イランにおいてレズビアンであること」と題してアウトライト・アクションにより作成された 2016 年の報告書は、以下のように述べている。

「イランにおけるレズビアンは、女性としての権利に関する制約の他に、同性愛行為の犯罪化並びに広範にわたる社会的不寛容に基づく更なる制約に直面する。この二重の差別は、彼女らが直面する著しい虐待に寄与する。レズビアンは、恣意的な逮捕及び拘禁に直面し、また彼女らは拘禁の間に警察の手に

³⁰ IRFQR、「イランのクィア・ウォッチ報告書」、2018 年、[url](#)

³¹ Accord、「イラン：LGBTI の人々：COI 編集」、67 ページ、2015 年 12 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

よって更なる人権侵害の被害を受けるが、それは同性愛嫌悪の攻撃から肉体的拷問までの範囲にわたる。」

「イランの女性たちの間の同性関係に関する法的な禁止を考慮すると、当局による逮捕及び、禁錮刑及び鞭打ち刑を含む法的刑罰の可能性は、イランのレズビアンの人々にとって現実のものとして存続する。」³²

4.1.16 アウトライト・アクションによる、2016年の同報告書はまた、次のようにも述べている。「イランにおけるLGBTIQの人々の逮捕、投獄及び鞭打ち刑—レズビアンを含む—の数に関する信頼できる統計はない。なぜなら、被害者はしばしば、恐怖と社会的汚名に基づく彼らの経験を報告することを避けるからである。」³³

4.1.17 Small Mediaにより記述された2018年5月付けの、「沈黙を破る—イランにおけるデジタル・メディア及びLGBTQの権利のための闘争」と題する報告書もまた、次のように述べている。

「人権に関する報告書を検証することは、国際的人権監視組織にとって膨大な課題として残される。このことは処刑に拡張されるのみではない。国家によるLGBTQ市民の、低レベルの「良俗」法による嫌がらせもまた、国際レベルにおいて分類して擁護することは困難であるが、その大部分はLGBTQコミュニティのメンバーが彼ら自身及び彼らの性的指向又は性自認に不必要な関心を惹くことを恐れるからである。」³⁴

[目次に戻る](#)

4.2 トランスジェンダーの人々

4.2.1 ガーディアンにより2017年3月に公表された記事は、イランにおけるトランスジェンダーの人々を注視している。それは以下のように述べている。

「政府によるトランスジェンダーのコミュニティの扱いはそれほど明確ではない。1983年にAyatollah Khomeiniが社会におけるトランスジェンダーの人々の受け入れを許可するfatwa（法解釈）を公表して以来、性別適合手術が実施可能となり、イラン人はこの手術のために貸付金を借りることができる。実際、タイを除いては、イランは世界のどの国よりも多くの性別適合手術を実施している。LGBTのコミュニティにおけるある人々にとって、手術は諸刃の剣である。手術は、彼らの信念と彼らの性について妥協しようとするゲイの人々にとって論争を招く解決策であるが、政府は手術を望まないトランスジェンダーの人々を容認することを拒否する。」³⁵

4.2.2 2017年4月にQuartzにより作成された報告書は、前述のfatwa（法解釈）が通過した後に、次のように述べた。

「トランスジェンダーの人々はもはや逸脱者としてではなく、治療（性別適合手術）を伴う医療上の病気（性同一性障害）として論じられる又はみなされる。」

³² アウトライト、「イランにおいてトランスジェンダーであること」、2016年、[url](#)

³³ アウトライト、「イランにおいてトランスジェンダーであること」、2016年、[url](#)

³⁴ Small Media、「沈黙を破る」2018年5月、[url](#)

³⁵ The Guardian、「ゲイ又はトランスジェンダーとして存在することが最も困難な場所」、2017年5月1日、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

「イラン政府は、トランスジェンダーであることをそれ自体カテゴリーと認識せず、むしろトランスジェンダーの人々を心理的な問題を伴う人々と見て、そのために彼らに医療上の解決策を提供する。」とグローバルな LGBTIQ の権利組織である、アウトライト・アクション・インターナショナルの中東及びアフリカのエキスパートである Kevin Schumacher は語る。この政策は、性はバイナリーであり、しかも社会的責任は男性と女性の間で分割されるべきであるという、イスラム的概念に基づいている。

「あなたが男性として生まれ、そしてあなたの身体が女性である場合には、あなたと社会の幸福を保護するために、政府はこの問題を解決することに責任を有する。」と Schumacher は語る。³⁶

4.2.3 アウトライト・アクション・インターナショナルの 2016 年報告書は、イランのトランスジェンダーの人々に関して、そのエグゼクティブ・サマリーにおいて以下のように述べている。

「イラン・イスラム共和国は、トランスジェンダーの人々を性同一性障害（gender identity disorder : GID）の治療の枠組みにおいて概念化し、その対応において、転換の特定の形態—それに関連するヘルスケア—において限定された助成金が提供されるが、これには性別適合手術（gender confirmation surgery : GCS）、ホルモン補充療法（hormone replacement therapy : HRT）、及び様々な種類の心理的カウンセリングが含まれる。」

「性同一性に関連する医療化は、トランスジェンダーのコミュニティのメンバーに対するある種の法的認定を与えることを可能にしたが、それはまた、トランスジェンダーの人々は心理的及び性的障害を受けており、したがって「正常」となるための治療を必要とするという概念に根差す汚名を増幅させる。」

イラン法は、トランスジェンダーの人々のジェンダー・アイデンティの法的な認定を可能にする。しかしながら、そのような認定は公式に GID と診断された人々にのみ、またその人々が長いプロセスにわたる法的及び医療的性転換を成功裏に完了した上で与えられる。政府の立場は、イランはトランスジェンダーの権利に関して進歩的であると結論付ける何人かのオブザーバーを導いた。政府の政策には前向きな側面がある一方、トランスジェンダーのイラン人たちは、法律及び慣行において深刻な差別及び虐待に直面し、そして彼らは社会における同等のメンバーとして扱われることは稀である。

イラン法は、GCS へのアクセスが得られず、GCS を追求することを望まず、またその余裕もないトランスジェンダーの人々のジェンダー・アイデンティを認定できていない。このことは、多くの人々から法的認定を奪い、彼らを嫌がらせと差別に対して特に脆弱にしている。法律は、医療の介入を望まない、又はどの医療手順が自身に適切かについて自ら決定したいと望むトランスジェンダーの人々を認定することに完全に失敗している。³⁷

4.2.4 クィア難民のためのイラン鉄道による 2018 年報告書は述べている。

トランスジェンダーのイラン人たちは、当局からの逮捕、虐待及び拷問について、彼らの仲間のゲイ及びレズビアンであるイラン人よりも大きな脅威に晒されている。結局、トランスジェンダーのイラン人に対する裁判手続は並外れて悪化している。

³⁶ Quartz、「イランには、トランスジェンダーの者として生き残るための唯一の手段がある」、2017 年 4 月 19 日、[url](#)

³⁷ アウトライト、「イランにおいてトランスジェンダーであること」、2016 年 10 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

トランスジェンダーのイラン人たちにはまた、より直接的な次元の脅威がある。大半のトランスジェンダーの人々は、彼らが性別適合手術を受けない限り、法的な就職許可を得ることはできない。しかしながら、手術のコストは国家により負担されず、この手順及び必要条件としてのホルモン療法のコストを負担するのに必要な経済的手段を有するトランスジェンダーのイラン人はほとんどいない。貧困及び社会からの排除に追いやられ、多くの人々は売春に走り、そして性感染症、殴打、レイプ、及び殺害さえものリスクを負うことになる。³⁸

4.2.5 Small Media による「沈黙を破る」と題する 2018 年の報告書は、次のように述べている。

[...] その他の多くの法規定が、LGBTQ の人々の権利に直接的影響を及ぼしている。強制的にベールを着用させることは、そのような例の 1 つである。IPC の第 638 条は、罰金又は投獄の威嚇の下に、女性は公共の場所では hijab (ベール) を着用することを要求している。同条はまた、「宗教上のタブー」に違反することを禁じている：

第 638 条—明示的に公衆の面前で何らかの宗教上のタブーに違反した者は誰でも、その行為に対して処罰される他に、10 日間から 2 か月間までの禁錮刑に処せられるか、又は鞭打ち刑 (74 回) に処せられるものとする。

注—イスラムの hijab (ベール) を着用することなく公共の場所又は道路上に現れた女性は、10 日間から 2 か月間までの禁錮刑又は 5 万から 5 百イラン・リヤルまでの罰金刑に処せられるものとする。

レズビアン及び両性愛の女性、トランスジェンダーの人々、及び女装した男性は、この条項により特に影響を受け、これにより、その人々が服装によってそのジェンダー・アイデンティティを完全に表現することを信じられないほどの難題としている。女性及び男性の月並みな概念に挑戦するような服装モード又は外見を採用した場合には、そのような人々は、自らを恣意による逮捕、拘禁及び虐待という重大なリスクに晒すことになる。³⁹

4.2.6 AP 通信による、「イランのトランスジェンダーの人々は fatwa (法解釈) にもかかわらず、差別に直面する」と題する 2018 年 5 月の報告書は、以下のように述べている。

支配的な聖職者の見解においては、性別適合手術の目的は「病氣」を治療し、まともな男性又はまともな女性の認定されたバイナリーに再適合させることである。手術を受けること及び新しい書類を取得することを選択しない者は、政府が認定した性に反する様式の服装をしたことにより警察に逮捕される可能性がある。

[...] トランスジェンダーの人々は、詳細な医学的検査を実施し、精神科医と面談した後に、性別適合手術の公的許可を得るために裁判所に行くことができる。その後、新しいアイデンティティ書類及び手術のための経済的支援を受け取ることができる。

イランはトランスジェンダーの人々に対して、およそ \$1,200 を貸し付けるが、しかしこの額は手術のコスト \$7,000~\$12,000 よりはかなり低いものである。2 月にイランの国家福祉機関 (State Welfare Organization) は、過去 15 年間に 3,000 人の人々が性別適合手術の経済補助申請をしていると述べた。

³⁸ IRFQR、「イランのクィア・ウォッチ報告書」、2018 年、[url](#)

³⁹ Small Media、「沈黙を破る」2018 年 5 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

当機関の副管理者の Habibollah Maoudi Farid は、イランの高官のイラン学生通信社（ISNA）に対して、年間あたり 70 人もの人々が貸付金を申請していると語った。⁴⁰

4.2.7 USSD イラン 2018 年人権慣行に関する報告書（HRP）もまた、NGO は、当局が LGBTI の人々に対して性別適合手術を受けるよう圧力をかけていると述べた。⁴¹

[目次に戻る](#)

セクション 5 更新日：2019 年 4 月 1 日

5. 社会の姿勢と処遇

5.1 社会の処遇

5.1.1 フリーダム・ハウス（Freedom House）による「世界の自由（The Freedom in the World）」2018 年報告書は、LGBT（レズビアン、ゲイ、両性愛、及びトランスジェンダー）のコミュニティは嫌がらせ及び差別に直面するが、ただし、この問題はこれらのグループの犯罪化された及び隠された性質のために過少報告されると述べている。⁴²

5.1.2 「クィア難民のためのイラン鉄道」グループにより作成された 2018 年報告書は、以下のように述べている。「イランにおいては、LGBT は自らを家の内外において虐待に対して脆弱であると考えている。したがって、クィアのイラン人にとって、自己検閲は自己保全の手段である。虐待及び暴力は、民兵及び公的な治安部隊等の国家主体からの他に、家族、友人及び隣人等の民間主体からもくることが考えると、このことは特に重要である。⁴³

5.1.3 オーストリア難民出身国及び庇護研究ドキュメンテーションセンター（ACCORD）、COI による 2018 年 7 月付け「イラン：COI 編集」と題した、2015 年 5 月にオランダ外務省により着手された国別報告書の非公式な翻訳の要約を特集した報告書は、次のように述べている。

「…イランにおける同性愛の社会的受容度は低い。LGBT の人々に対する一般的な姿勢は、「尋ねるな、話すな」である。」報告書は指摘を続けるが、同性愛の人々は、社会的汚名のために、当局による処遇より、すぐ近くの人々にどのように扱われるかについてより大きな恐怖を持っている。もし家族のメンバーがある人を同性愛者であると報告したとしたら、このことはその人の職場又は大学からの放逐をもたらす可能性がある。LGBT の人々にとって、より大きな都市において目立たないようにしていることはより容易であり、その多くが他所からそこに移住することを選択するのはこのためである。匿名の情報源が指摘するように、当局は、社会のメンバーから差別されていると感じる LGBT の人々に対して保護を提供しない傾向にある。⁴⁴

5.1.4 「イランでレズビアンであること」と題するアウトライト・アクション・インターナショナルにより 2016 年に作成された報告書は、次のように述べている。

「レズビアン及び LGBTIQ コミュニティの他のメンバーが直面する法的な差別はまた、社会全体によるレズビアンの受容度の欠如に寄与し、レズビアン及び LGBTIQ コミュニティの他のメンバーを国家

⁴⁰ Associated Press、「イランのトランスジェンダーの人々は差別に直面する」、2018 年 5 月、[url](#)

⁴¹ USSD、「イラン 2018 年人権報告書」2019 年 3 月、[url](#)

⁴² Freedom House、「世界における自由—イラン」、2018 年 1 月、[url](#)

⁴³ IRFQR、「イランのクィア・ウォッチ報告書」、2018 年、[url](#)

⁴⁴ Accord、「イラン：COI 編集」、185～186 ページ、2018 年 7 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

主体及び民間主体の両方による嫌がらせ、虐待、及び暴力に対して脆弱にしている。アウトライトによりインタビューされた多くのイラン人のレズビアンは、『民間主体によりなされる嫌がらせ、虐待、及び性的又はジェンダー・ベースの暴力を法執行担当官に報告することを恐れている、なぜなら告発されること又は友人たち及び家族に「暴露される」ことを恐れているからである』と語った。」⁴⁵

5.1.5 同情報源はさらに指摘した。「レズビアン及びゲイの若者たちのいじめ及び恐喝は広範囲にわたる現象であり、そしてそれは学校又はスポーツクラブ、公園、及びサマーキャンプ等のその他の公共の場所において特に一般的である。この虐待はしばしば、性的嫌がらせ及びレイプを含む性的襲撃を伴う可能性がある。それでも、これらの危険に直面する及び経験するレズビアンはしばしば、見捨てられていると感じ、警察及び司法制度に保護を求めることができない。」⁴⁶

5.1.6 ガーディアンによる「ゲイ及びトランスジェンダーとして存在することが最も困難な場所は世界のどこか？」と題する 2017 年 3 月の記事は、次のように述べている。

「恐喝はゲイの男性にとって甚大な問題である、とイランのクィア組織の設立者である Saghi Ghahraman は説明する。その理由は、イランの同性愛に関する複雑な法律が、男性らは合意による性行為について、彼らが〔能動的〕関係者であるか〔受動的〕関係者であるかによって異なる刑罰を受けることを意味しているからである。受動的な者は死刑に直面する、しかし能動的な者は彼が既婚である場合にのみ同一の刑罰を受ける。この法律はパートナー間の不信につながる可能性がある。なぜなら、逮捕された場合に受動的パートナーの唯一の防衛策はレイプと主張することであるからである。このことはまた恐喝の雰囲気を生み出させる。」

「そして法律の特筆すべき 1 つの条文において、父及び祖父はイラン法の下で彼らの子孫を殺害する権利を与えられていることであるが、このことは〔名誉〕殺人を合法化している。〔年少時から、子どもたちは、家庭から始まり世界は LGBT に対して極めて敵対的であるということ学ぶ、〕と Ghahraman は語る。」⁴⁷

5.1.7 AP 通信の「イランのトランスジェンダーの人々は fatwa（法解釈）にもかかわらず、差別に直面する」と題する 2018 年 5 月の記事は、Nahal と呼ばれる 19 歳のトランスジェンダーの女性にインタビューをしたものである。記事は次のように述べている。

「Nahal は、男性の嗜好を強要する級友たちと離れることを余儀なくされる前に、高校をほとんど始めなかったと思い起こした」。ピンクにマニキュアした指で長い褐色の髪をかき上げながら、彼女は子どものころの古い写真を何枚も見返しながら、家族でさえも彼女を受け入れることに苦闘したことを物語った。

「私は、もはや親類たちには会いません」と彼女は語った。「おそらく私は、あなたの子どもたちが同じ問題に遭遇したら、あなたはそれを受け入れることができるということの象徴です。」

イスラム共和国—おそらく外国の人々には驚きであろうが、トランスジェンダーの人々に対して中東においておそらく最も開かれた考え方を持つ—において、Nahal についてはこうあるべきではない。シー

⁴⁵ アウトライト、「イランにおいてレズビアンであること」、2016 年、[url](#)

⁴⁶ アウトライト、「イランにおいてレズビアンであること」、2016 年、[url](#)

⁴⁷ ガーディアン、「ゲイ又はトランスジェンダーとしてとして存在することが世界で最も困難な場所」、2017 年 5 月 1 日、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ア派神権政治の創設者であるアヤトラ・ローホーラ・ホメイニは、宗教令すなわち fatwa（法解釈）を 30 年前に発令したが、それはトランスジェンダーの人々を尊重し、性別適合手術の公的な支援に道を開くよう呼びかけた。

しかしながら、一般公衆はなおも彼らに嫌がらせ及び虐待をし、また家族はしばしば彼らを避ける。職場における差別はある者を売春に走らせ、またある者を自殺に追い込む。

「社会の対応はまったく良くない—口頭による及び肉体的虐待及び嫌がらせがある」と Nahal は語った。「数人の人たちに襲撃され、殴打されたこともある。」⁴⁸

5.1.8 2016 年 10 月に、「イランにおいてトランスジェンダーであること」と題するアウトライト・アクション・インターナショナルにより作成された報告書は、次のように述べている。

「多くのトランスジェンダーのイランの人々は、彼らは法的、医学的及び経済的難題の他に、職場及び学校における排斥から公衆による嫌がらせまでの社会的プレッシャーに耐えている。トランスジェンダーの人々が経験する社会的差別、家庭内暴力、及び法的嫌がらせはしばしば、若い年代から始まり、彼らが医学的転換又は法的なジェンダー認定を追求することを選択するかどうかにかかわらず、彼らの生涯にわたって継続する。」⁴⁹

[目次に戻る](#)

5.2 家族の処遇

5.2.1 イランの正義 (JFI) 及び 6Rang により「アイデンティティ、傷ついた身体を診断する：イランにおけるゲイ、レズビアン、及びトランスジェンダーの人々に対する人権侵害」と題して 2014 年に作成された報告書は、以下のよう述べている。

「相当数のレズビアン、ゲイ及びトランスジェンダーの人々が JFI 及び 6Rang によりインタビューを受け、また彼らの性的指向及びジェンダー・アイデンティティのために家族から様々な形態の虐待を受けていると報告された。これらには、殴打及び鞭打ち並びに強制隔離及び友人及び社会からの孤立、無視と放棄、口頭による侮辱及び死の脅迫などの様々な形態の心理的虐待が含まれる。レズビアン及び女性から男性へのトランスジェンダーの人々に対しては、これらの虐待にはしばしば見合い結婚に関わることへの脅迫又は現実が伴われる。イランのレズビアン、ゲイ及びトランスジェンダーの人々は、虐待及び暴力に対して司法に頼ることも、支援を受けることもできず、家族の中で日常的に被害を受けているが、そのことは非国家主体が同性愛嫌い及びトランスジェンダー嫌いの暴力について免責事項を伴う法制化を行うことの大胆さを感じることにつながる。」⁵⁰

5.2.2 報告書は論述を続ける：

「挑発、侮辱及び脅迫は、レズビアン、ゲイ及びトランスジェンダーの人々にとって一定した現実であり、そしてそれは余りに一般的であるため、彼らの多くは嫌がらせ及び虐待のリスクを低減させるために、自らを隔離し、公衆との接触を回避する。」

⁴⁸ AP 通信、「イランのトランスジェンダーの人々は差別に直面する」、2018 年 5 月、[url](#)

⁴⁹ アウトライト、「イランにおいてトランスジェンダーであること」、2016 年 10 月、[url](#)

⁵⁰ 6Rang、「レズビアン、ゲイ及びトランスジェンダーの人々に対する人権侵害」、2014 年 6 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

「女性及び男性として文化的に承認されているモデルに適合しないレズビアン、ゲイ及びトランスジェンダーの人々に対する性的襲撃及びその他の肉体的攻撃もまた、全てあまりにも一般的である。JFI 及び 6Rang によりインタビューを受けた多くのレズビアン、ゲイ及びトランスジェンダーの人々は、イランにおける彼らの人生は男たちにより襲撃される、及びレイプされるという絶えざる恐怖により特徴付けられると報告している。性別適合手術を受けておらず、また性同一性が、彼らの性器を愛撫しようとする男たちによって意思に反して開示されることを恐れる女性から男性へのトランスジェンダーの人々にとってこのことは特に真実である。」⁵¹

5.2.3 2018年9月の、クィア難民のためのイラン鉄道、「イランのクィア・ウォッチ報告書 (Iranian Queer Watch Report)」は以下のように述べている。

「多くのクィア・イラン人は、真のセクシャル・アイデンティティを開示した後に、家族とのつながりがしばしば緊張したか、あるいは苛酷なものにさえなったかということを以下に詳しく話している。期待される性の規範に反する振る舞い、すなわち—少年又は少女はいかに行動すべきかに関して—受け入れられる性の期待に適合しない振る舞いをする子どもたちは、両親及び家族の他のメンバーに不安を掻き立てる可能性があり、そのことにより両親は子どもたちの生活を厳格に監視し、そして苛立ち、恥辱又は怒りにおいて子どもに暴言を吐くことにつながる可能性がある。

ヒューマン・ライツ・ウォッチにより、その2020年の調査の過程においてインタビューを受けた極めて大多数のLGBTのイラン人たちは、家族による虐待及び排除について語った。彼らは、両親又はきょうだいたち、特に兄たちに殴打されたが、それは家族が彼らの同性愛関係を知るに至ったか、若しくはその性的指向又はジェンダー・アイデンティティを家族に開示したかのいずれかによるものであった。これらの虐待には、嫌がらせ及び脅迫、絶え間ない監視、並びに肉体的及び性的暴行が含まれた。」⁵²

6.1.8 報告書はさらに論述する：

「イスラム共和国の刑法による性行為についての刑罰は、レズビアンについてはより苛酷ではないが、彼女らの社会的及び経済的状況はゲイの男たちに比較すると著しくより制約的である。女性として、レズビアンはすでに、イランの女性を家庭内の役割に限定する家父長制の文化的及び構造的パラダイムに捕らえられている。これらの不利な要素は、性的指向によって彼女らが受ける差別と重ね合わされる。イランのレズビアンにとって、経済的に及び社会的に生き残ることは、性的アイデンティティを様々な手段によって抑圧する又は隠匿することの彼女らの能力に依存することである。この自己抑制は発覚に対して然るべき根拠のある恐怖から生じるものである。もし家族が彼女の性的指向についてひとたび知ったとしたら、イランのレズビアンは虐待され、殴打され、そして殺害さえもされる可能性がある。男性の親族によるいわゆる「名誉殺人」は異常なことではなく、そしてそのような犯罪を社会的に正当化できる状況は、イラン社会の保守的な価値規範を反映するものである。最も頻繁に起こるのは、レズビアンの人々は家族により見捨てられたことを認識するが、その状況はこれらの女性らを生き残るために売春の道に引き込み、そしてすでに疎外されている女性たちに起こり得る悲惨な結果に至ることが頻繁にある。」⁵³

⁵¹ 6Rang、「レズビアン、ゲイ及びトランスジェンダーの人々に対する人権侵害」、2014年6月、[url](#)

⁵² IRFQR、「イランのクィア・ウォッチ報告書」、2018年、[url](#)

⁵³ IRFQR、「イランのクィア・ウォッチ報告書」、2018年、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

5.2.4 AP 通信による、「イランのトランスジェンダーの人々は fatwa（法解釈）にもかかわらず、差別に直面する」と題する 2018 年 5 月の記事は、以下のように述べている。

トランスジェンダーの人々が直面する最悪の虐待は、おそらく家庭においてである。家族は、愛する人を受け入れることがなほ困難であると感じる。多くのトランスジェンダーの女性たちは、家族のメンバーにより家庭から蹴り出されるか又は脅迫されることになる。

Behnam Ohadi—精神科医であり心理学者でもあり、トランスジェンダーの人々にカウンセリングを行い、手術のために彼らを保健省に紹介する—は、ある家族は手術を止めさせるためなら彼らにできることは何でもすると語る。

「ある家族は、もし私が彼らの子どもがトランスジェンダーだと告げたら、私を殺すと脅迫さえする」と彼は語る。「時には彼らは、子どもが癌である又は死亡したことを望む。」

Ohadi は、家族から排除されたトランスジェンダーの人々は、仕事を見つけることは極めて困難なので、結局、売春婦となる可能性があると言語。

「家族は子どもに沈黙を守らせようとし、時には家を移し他の都市に行く」と Ohadi は語る。「これらの問題は我々の社会では強制的に埋没させられている。」⁵⁴

5.2.5 Small Media はイランにおいて、インタビュー、フォーカスグループ、机上調査、オンライン調査及びソーシャルメディア・モニタリングを組み合わせて実施し、LGBTQ の人々が直面する状況について総括報告書を作成した。「沈黙を破る—イランにおけるデジタル・メディア及び LGBTQ の権利のための闘争」と題する彼らの報告書は、次のように述べている。

イランにおけるこのように厳格で容赦ない反 LGB の法律、及び広く拡散した LGBTQ コミュニティの全てのメンバーに対する不寛容の信念の存在を考慮すると、これらの人々に対する、願望を抑圧する及びアイデンティティを隠匿する圧力は巨大なものである。それでも、2018 年 3 月 14 日から 4 月 8 日までに実施した 806 人の LGBTQ のイラン人にする我々の調査に基づけば、コミュニティは、クローゼットから出てくること、またそのアイデンティティを宣言することにより断固として行動することに対して、十分な安心感を益々感じるようになっているようである。

我々の調査の全サンプルの中で、回答者の 60% は、少なくとも 1 人に対して「カミングアウト」している。このことは、LGBTQ のアイデンティティを公表することのリスク—それは国家による暴力、家族からの排除、又は進行中の嫌がらせのいずれのリスクであっても—の存在を考慮すると興味深いことである。

年齢別統計を確認すると、我々は増大しつつある頻度において、より若い LGBTQ の人々がカミングアウトし、そして彼らの性的指向及びジェンダー・アイデンティティについて仲間たちと議論していることを見ることができる。30 歳未満の全ての年齢の同集団の中で、回答者の 60% 超は少なくとも 1 人に対してカミングアウトしており、18 歳未満では 68.6% まで上昇している。

注目すべきことは、調査された半数を超える LGBTQ の人々は、過去 10 年間にわたりコミュニティについての一般大衆の認識は全体的に改善されたと感知しており、また同時に、この前向きの変化がロウハーニー政権に帰するとする者はわずか 12% にすぎない。このような結果は、一般大衆の認識は、国家

⁵⁴ AP 通信、「イランのトランスジェンダーの人々は差別に直面する」、2018 年 5 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

サイドによる何らかの進歩的な措置によるよりは、むしろ社会的・文化的推進力により転換されたことを示唆している。⁵⁵

5.2.6 報告書は論述を続ける：

多くの我々のインタビュー者及びフォーカスグループの参加者は、我々がまさに論じた、一般大衆の意見の知覚し得る変化の源泉について我々に語った。カナダに拠点を置くイランの両性愛者である“Keyvan”は、社会のある種の部分、特にオンライン、において LGBTQ の話題が次第に正常化しつつあると感じられることについて、我々に語った。

「私は、より多くの人々が LGBTQ の問題に親近感を持っていると見ている—例えば、ツイッターでは人々はよりオープンに話しており、また用語を気楽に使っている。私は、少なくとも特定の社会的グループ間では、より高度の認識があると考えている。彼らは LGBTQ の [人々] の存在を知って、受け入れている。しかし、同時に我々は、社会自体の文化を変化させる手段を [オフライン] に見いだすべきである。」

同じように、イランに拠点を置くレズビアンである“Jaleh”は、メディアにおける—輸入された国際的映画又はディアスポラが作成した TV 番組であっても—LGBTQ の問題の論議の文化的影響について次のように語った。

「[状況] は改善された。 [LGBTQ の問題に関する] 論議をどこでも耳にするし、私の家族においてもそうである。最近、芸術及び映画において同性愛を頻繁に見ることができる、そしてそのことは同性愛者を目に見えるようにする上で極めて効果的である。BBC 他を含む全てのメディアは役割を果たしている。この問題に関するタブー [及び汚名] は打ち破られ、現在では相当程度まで些末化されているように思われる。」

イランに住むトランスジェンダーの男性である“Farhad”もまた、LGBTQ の一般大衆の意見を再構築するためのメディアのパワーについて語ったが、さらにイランの国営メディアにおいてさえも、トランスジェンダーの権利に関して進歩的な議論が主流の中に入り込み始めているが、それは大きな部分において、女優の Behnoush Bakhtiari のような著名人による一般大衆による擁護への努力に負うものであると付け加えた。

「最近、14 歳のティーンエイジャーたちがカミングアウトし、彼らは同性愛者であると話している…。一般には [性的指向及び性自認] の話題に関する議論はより頻繁に行われている。トランスジェンダーの問題もまた、公式な [イランの] メディアにおいて論じられている。例えば、 [女優] の Behnoush Bakhtiari はトランスジェンダーの人々について語っているが、それは意識の啓発のために極めて効果的である。」⁵⁶

5.2.7 報告書は次のように結論付ける：

LGBTQ の市民の権利の法的認定に関して過去 10 年間にわたりいかなる進歩もなかったが、我々の調査は、社会の姿勢は緩やかに良い方向に向かっていることを示唆している。これはサテライト及びオンラインメディアにおいて LGBTQ の問題の取り扱いが増加したことに負うものである。

⁵⁵ Small Media、「沈黙を破る」2018 年 5 月、[url](#)

⁵⁶ Small Media、「沈黙を破る」2018 年 5 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

我々の調査及びLGBTQの人々との会話、インスタグラム及びテレグラムに関するコミュニティ活動の我々の概観、並びに既存のコミュニティ資源の我々の評価に基づけば、我々は2013年の前回の報告書以来、LGBTQのコミュニティは信頼性、組織及び楽観性において進展したとすることができる。国家による暴力、嫌がらせ及び同性愛嫌悪という形態における膨大な難題が存在してはいるが、我々は、国家指令による同性愛嫌悪及びコミュニティによる抑圧に対して、潮流が良い方向に転向し始めていることの数多くの兆候を観察する。

益々多くのイランの若者たちが、以前に比して彼らの仲間のカミングアウトしているようであり、ここに一部の若いLGBTQの人々は自らをソーシャルメディア・プラットフォームに出現させている。イランのLGBTQ組織は、彼らが可能な限りそうすることができることを支援するための資源を生み出すべきである。

我々の調査結果及びインタビュー者とフォーカスグループの参加者からの観察は、イランのティーンエイジャーはかつてないほど多くの者がカミングアウトしていることを示唆している。若いイラン人たちが彼らの性的指向及び性自認についてオープンに語り合うことに十分な信念を感じ始めていること、また友人及び家族からの支援を得ている者もいるということは励みになることである。

同時に、一部のティーンエイジャーは、同性愛行為がなおも犯罪化されており、また反LGBTQの感情がなおもこのように広まっている現時点において、このように正直に話すことによる甚大なリスクを負うことになる。

LGBTQのコミュニティは、そのためのより多くの一般大衆の擁護者を惹きつけているが、この人たちは一般大衆の意見の再構築に役立っている。…過去数年間にわたり、より多くのイランの著名人がLGBTQの権利の認定を推し進めているが、それにはポップ歌手の大スターGoogoosh及びTVと映画の女優Behnoush Bakhtiariが含まれる。ペルシャのディアスポラの何人かのパーソナリティがなおも公衆にカミングアウトしたが、それにはManotoのジャーナリストAram Bolandpazが含まれる。同時にインスタグラム等のソーシャルメディア・プラットフォームで高い影響力を持つユーザーは、LGBTQの問題をユーザーのタイムラインに導入することに熟達しているが、そうでなければこれらのユーザーはLGBTQの権利の問題に関心を持たなかったであろう。⁵⁷

[目次に戻る](#)

5.3 子どもたちと若者たち

5.3.1 イラン・レズビアン、トランスジェンダーネットワーク (6Rang) による、「イランにおけるLGBTの子どもたちの状況」と題する2015年6月付けの刊行物は、LGBTの子どもたちに対する家族の暴力のテーマに関して、以下のように述べている。

家族内において様々な形態の肉体的及び精神的暴力に晒されるLGBTの子どもたちの報告。これらには、殴打及び鞭打ち並びに友人たち及び社会からの強制的隔離及び孤立、無視及び放棄、口頭による侮辱並びに死の脅迫が含まれる。レズビアン及び女性から男性へのトランスジェンダーの人々に対しては、これらの虐待はしばしば強制的に見合い結婚させられることへの脅迫又は現実が伴う。イランにおけるLGBTの人々は、家族内で日常的に受けている虐待及び暴力に対して司法に頼ることも、支援を受

⁵⁷ Small Media、「沈黙を破る」2018年5月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

けることもできない。この免責される状況は虐待的家族のメンバーがより同性愛嫌い及びトランスジェンダー嫌いの虐待を犯すことに大胆にさせている。

「イランの刑法は、両親及び法的保護者に対して [それが懲戒基準を超えない限りにおいて] 子どもに体罰を加えることを許容している (第 158 条 (T))。イランの刑法の下では、自分の子ども又は孫を殺害した父又は祖父は通常殺人に適用する刑罰を免除され (第 301 条)、そして 3 年から 10 年までの禁錮刑のみを科されることがある (第 612 条)。」⁵⁸

5.3.2 報告書は、学校及びコミュニティの暴力のテーマの取り扱いを続け、次のように述べている。

イランでは、レズビアン、ゲイ、両性愛又はトランスジェンダーと知覚される学校の子どもたちは、心理的及び肉体的にいじめを受ける傾向にある。学校当局は、そのようないじめに対して何らかの効果的な措置を講じることは稀であると信じられており、このことが落ち込み及びその他の肉体的及び精神的問題につながり、子どもたちの個人的及び社会的発達を阻害し、そして彼ら自身が暴力的となることが知られている。

イラン・レズビアン、トランスジェンダーネットワークによるインタビューを受けた LGBT の人々はまた、教師ら及び学校の管理者ら自身の手によっても肉体的及び精神的暴力を経験したと報告されている。暴力のレベルは、退学しなければならないと感じるほどのレベルの苛酷さに達したと感じる者もいた。

様々な特別任務保持者が認識しているように、同意に基づく個人的な同性愛行為の犯罪化は汚名化を加速させ、そして様々な性的指向及び性自認を有する人々を、少数派を含めて、コミュニティの暴力に対してより脆弱にさせる。イラン・レズビアン、トランスジェンダーネットワークにより実施された調査は、LGBT の若者たちは絶え間のない同性愛嫌悪の挑発、侮辱及び脅迫を経験する傾向にあり、そしてこのことは余りに一般的であるために、彼らの内の多くは公衆のメンバーによる嫌がらせ又は攻撃を回避するために自ら孤立することを決心する。

イラン・レズビアン、トランスジェンダーネットワークはこの調査の間に、その性的指向及び性自認のために 18 歳未満のときに性的暴行及びレイプを受けたと話した何人かの人たちにインタビューを行った。これらの全てのケースにおいて、被害者らは、法律によって保護されていないと感じるのみではなく、警察に訴えたならば、逮捕され性的暴行で起訴されるのではないかと恐れていると話した。⁵⁹

[目次に戻る](#)

5.4 「秘密のプライド (Secret Pride)」

5.4.1 多くの情報筋は、2010 年以來イランにおいて、若い活動家のグループが一連の「秘密のプライド (Secret Pride)」を開催していることを示している。2017 年 7 月に、Michaela Morgan により「LGBT+イラン人たちは『レインボウ・フライデー』と共にプライドを秘密裏に祝うことになっている」と題して書かれた記事は、次のように述べている。

同性愛が違法であり、死によって処罰可能な国において、イランの LGBT+コミュニティは可能な唯一の手段によって、すなわち秘密裏に、プライドを祝う。

⁵⁸ 6Rang、「イランにおける LGBT の子どもたちの状況」、2015 年 6 月、[url](#)

⁵⁹ 6Rang、「イランにおける LGBT の子どもたちの状況」、2015 年 6 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

“Ranginkamaniha”すなわち「レインボウ・フライデー」は2010年以來行われており、それは国内のレインボウの旗、風船及び希望のメッセージを伴う彼ら自身の写真を掲げたクィア・コミュニティの人々を招待する—ただし、安全のために彼ら自身の顔は隠す。⁶⁰

5.4.2 Sexuality Policy Watch により、「イランにおける2018年のプライドデイ」と題して書かれた記事は、次のように述べている。

7月27日はイランにおけるプライドデイである。それは9年間引き続いており、7月の第4金曜日（ペルシャ暦により Mordad の第1金曜日）であり、イランのプライドデイと名付けられ祝われる。

クィアであることは公式には違法であり、また同性愛行為はイランでは死によって処罰されるが、国内のLGBTIQの人々は彼ら自身の様式によってこの日を祝い、それをソーシャルメディアにおけるハッシュタグ#IranPrideによって共有する。

「レインボウ」（ペルシャ語で Ranginkamaniha）はこの日を設立した。グループは毎年声明を発表する。今年の声明は、「多様性のために闘う」に焦点を当てている。⁶¹

[目次に戻る](#)

セクション6 更新日：2019年4月1日

6. サービスへのアクセス

6.1 性的保健サービス

6.1.1 Small Media により2018年に作成された報告書は、LGBTQの人々に対する性的保健サービス及び資源について調査している。それは次のように述べている。

イランのLGBTQの関係者と性的保健サービス専門家と共に我々が実施した一連の会話及び調査を通して、我々は性的保健サービス及び資源へのアクセスに対する多数の障害について文書化した。STIに関する適切な情報又は実際的に安全な性的助言、若しくは目標を絞った適切な治療へのアクセスなしには、イランのLGBTQの人々は性感染症に晒されることの異常に高いリスクを負うことになる。

「…LGBTQの人々の性的保健サービスへのアクセスを改善することに対する主要な障壁は沈黙である—社会、保険専門家、及びLGBTQの人々自身からの沈黙である。イランにおける既存の性的保健サービスの極度に控えめな性質は、イランのLGBTQの人々にとって、検査のためにどこへ行けば良いのか、又はどの医者が信頼できるかについて知ることを困難にしている。」⁶²

6.1.2 報告書は続いた：

我々は、314人のLGBTQのイラン人の人々を調査したが、それは彼らの性的保健資源へのアクセス及び性的保健サービスに関わった彼らの経験について問い合わせるためであった。このサンプルの中で、65.9%はどこでペルシャ語のオンライン性的保健サービスにアクセスすることができるかについて知らず、また65.9%はそれが必要となった場合にどこで性的保健サービスにアクセスできるかについて知らなかった。

⁶⁰ SBS、「LGBT+イラン人たちは『レインボウ・フライデー』と共にプライドを秘密裏に祝うことになっている」、2017年7月、[url](#)

⁶¹ SPW、「イランにおける2018年プライドデイ」2018年7月、[url](#)

⁶² Small Media、「沈黙を破る」2018年5月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

LGBTQ の人々がイランで性的保健サービスにアクセスすることを妨げる主要な問題は、性的保健サービスの医者に対する彼らの信頼の欠如であるように思われる。回答者のわずか 8.9% のみが彼らの性的指向及び性自認について性的保健の医者に開示していた。そうしなかった人たちの内、28.6% は悪影響を生じるおそれから彼らの性又は性自認について話し合うことを差し控えた。回答者の内のわずか 4.5% のみが性的保健提供者は一般に適切な情報提供を受けていると考えていた。

しかしながら、批判の対象となったのは単に保健サービスではなかった。数人のフォーカスグループの参加者は、現在のオンライン性的保健資源の利用可能性の不足を批判し、またペルシャ語でオンラインの性的保健資源にアクセスすることは特に困難であると述べた。⁶³

[目次に戻る](#)

6.2 トランスジェンダーの人々

6.2.1 アウトライト・アクション・インターナショナルにより作成された 2016 年トランスジェンダー人権報告書は、新規の ID カードを取得するために「性別適合手術」(sex reassignment surgery : SRS) を受けたトランスジェンダーの人々に関わる法的プロセスを注視した。この報告書はまた、SRS を受けていない人々の状況を次のように考察した。

イランにおいて医療転換プロセスを望まない、そのようなプロセスに対する余裕がない、又は何らかの形態の医療性転換を望むがしかしそれ以外は望まないトランスジェンダーの人々は、法的なアイデンティティ認定を完全にはく奪され、教育を維持及び追求すること、住居及び雇用にアクセスすること、及び社会の中を自由に、また安全に移動することに対する苛酷な障壁に直面する。法律は、このようなトランスジェンダーの人々を認定せず、またジェンダー・バイナリーを横切る又はそこからはみ出ることを自認する人々に対してスペースも法的認定も与えない。⁶⁴

6.2.2 同報告書はトランスジェンダーの人々に対する国家の支援について続ける：

トランスジェンダーの人々に医療を提供するのは主として保健省の責任である。トランスジェンダーの患者に対する社会的及び心理的支援の提供は国家福祉機関 (State Welfare Office : SWO) に割り当てられる。イランのトランスジェンダー・コミュニティのメンバーを支援することに関わるその他の国家機関には、以下が含まれる。すなわち、トランスジェンダー・コミュニティの支援における国家政策的及び法的擁護活動をコーディネートする労働省、彼らに報告されたトランスジェンダーの個人たちを SWO に紹介する法執行機関 (Law enforcement agency)、司法上及び医療上の証人が得られた後に ID カードを再発行する国家市民登録機構 (National Organisation for Civil Registration : NOCR)、及びトランスジェンダーの個人たちが兵役義務から免除されるべきかどうかについて評価する徴兵委員会 (Military Draft Board) である。これらの機関に加えて、イラン国営のイマームホメイニ救済基金があるが、これは、低収入及び脆弱な人々にサービスを提供し、資格認定されたトランスジェンダーの人々に対して経済的支援を提供し、また (限定された範囲において) 就業することができないトランスジェンダーの人々に対して高度障害給付を付与する役割を果たすものである。⁶⁵

[目次に戻る](#)

⁶³ Small Media、「沈黙を破る」2018 年 5 月、[url](#)

⁶⁴ アウトライト、「イランにおいてトランスジェンダーであること」、2016 年 10 月、[url](#)

⁶⁵ アウトライト、「イランにおいてトランスジェンダーであること」、2016 年 10 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

6.3 教育

6.3.1 イラン・レズビアン、トランスジェンダーネットワーク (6Rang) は、イランの正義 (JFI) と共同で作成した 2014 年の彼らの報告書の指摘事項に基づいて、2015 年 6 月に、「子どもの権利に関する委員会」への提出物を作成した。「イランにおける LGBT の子どもたちの状況」と題する 2015 年の提出物は、次のように述べている。

同性愛嫌悪の差別はイランの学校では極度に広まっている。他の子どもたちに余りに女々しいとみなされる少年たち及びお転婆娘とみなされる少女たちは、彼らの外見及び振る舞いによってからかい及び嫌がらせに耐えるが、それは異性愛規範の性自認に適合しないと知覚される。学校当局もまた、若い人々を彼らの性的指向又は性的表現のために差別し、それは時々彼らが受け入れを拒否される又は排除されることにつながる。

イランの学校システムにおける性別分離のために、その外見が彼らの ID 文書に反する場合には、トランスジェンダーの若者たちは、特に暴力又は教育の権利の否定のリスクに晒される。彼らは彼らのトランスジェンダーの状況によって、生物学的性に対応する学校から排除される可能性があるが、しかも彼らは性別適合手術を受けて、彼らの性を反映する新しい ID 文書を取得するまでは、彼らの選択する性に対応する学校から登録を許可されない。⁶⁶

[目次に戻る](#)

セクション 7 更新日：2019 年 4 月 1 日

7. LGBT グループ、市民社会及び人権 NGO

7.1.1 USSD イラン 2018HRP 報告書は次のように指摘した：

政府は、地域の又は国際的人権 NGO による申し立てられた人権侵害の調査について、その活動を制限し、またそれに協力しない。政府は、国内の活動家の活動を制限し、また彼らの問い合わせ及び報告書に対して嫌がらせ、逮捕、オンラインのハッキング、並びに個人の活動家ら及び組織の作業場所の監視によって対応した。

法律により、NGO は外国の供与を受ける場合には内務省に登録し、許可を申請しなければならない。独立した人権グループ及びその他の NGO は、彼らの行動主義のための持続的な嫌がらせ、並びに政府官僚らによる閉鎖の脅迫に直面し、それには公式な登録を取得するまでの長引く、そしてしばしば恣意的な遅延が伴った。⁶⁷

7.1.2 「沈黙に向けて設定された法律：市民社会組織のグローバルな弾圧」と題して 2019 年 2 月にアムネスティ・インターナショナルにより作成された報告書は、次のように述べている。

イラン当局は、人権擁護者及び市民社会組織の活動を犯罪化するためにイスラム刑法における条項を利用する。このことがもたらす結果は、独立した人権組織が登録し活動することを阻止するのみならず、また「死刑を廃止させるためのステップ・バイ・ステップ (ペルシャ語の同義語、Legam としても知られる)」などの非公式のネットワーク又はキャンペーンさえも犯罪化することである。…刑法の条文は人権擁護者及び市民社会組織の活動を犯罪化するために頻繁に利用されるが、それには次が含まれる。

「国家の治安に反する犯罪のために集合し、共謀する」(第 610 条)「国家の治安を崩壊させる目的によ

⁶⁶ 6Rang、「イランにおける LGBT の子どもたちの状況」、2015 年 6 月、[url](#)

⁶⁷ USSD、「イラン 2018 年人権報告書」2019 年 3 月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

って2名を超える者らによるグループを形成する」(第498条)及び「国家の治安を崩壊させる目的のグループのメンバーである」(第499条)。これらの犯罪の定義は罪状法定主義の原則に反するものである、なぜならそれらは過度に幅広くまた曖昧であり、当局がそれらを恣意的に適用することを可能にする。⁶⁸

7.1.3 CPIT (出身国政策・情報チーム) は、イランに拠点を置き、LGBTIの人々を擁護する、登録済みの活動的 NGO によるいかなる報告書も発見できなかった。

[目次に戻る](#)

⁶⁸ アムネスティ・インターナショナル、「沈黙に向けて設定された法律」、2019年2月、[url](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

考慮事項

考慮事項 (ToR) とは、CPIN がカバーしようとする事項の幅広い概要である。それらは[出身国情報のセクション](#)の基盤を形成する。国務省出身国政策・情報チームは、テーマに応じていくつかの標準化された ToR を使用し、次にこれらは当該国に応じて適合させられる。

この特定の CPIN については、以下のトピックスが該当するものとしてドラフト作成の前に特定され、それらに関して調査が着手された。

- 法的状況
 - 憲法
 - 法令
 - 刑法
- 国家の姿勢及び処遇、施行中の法律を含む
 - LGBT の人々の逮捕及び拘禁並びに同性愛行為及びその他の犯罪による起訴
 - 警察の暴力
 - 反 LGBT の暴力の報告に対する警察の対応
 - 政府官僚による公式声明
 - オンブズマン／不服申立ての体制
- 社会の姿勢及び処遇
 - 社会的規範
 - 暴力及び差別
 - 反 LGBT への抗議
 - 親 LGBT 行進／ゲイのプライド
 - ゲイの「シーン」又は「コミュニティ」
 - LGBT ウェブサイト
 - 家族による処遇
- メディアの姿勢
- サービスへのアクセス
 - ヘルスケア
 - 住居
 - 雇用
 - 教育
- LGBT グループ、市民社会及び人権 NGO's
 - LGBT NGO の政府の認定
 - 市民社会グループに対する制限

[目次に戻る](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

参考文献

引用された出典

オーストリア難民出身国及び庇護研究ドキュメンテーションセンター (ACCORD)、「イラン：COIの編集」2018年7月

<https://www.refworld.org/docid/5b7d13234.html>. アクセス：2019年3月26日

アムネスティ・インターナショナル、

「イランは10代の学生を断手刑にするが、本年最初の子どもの処刑である」、2016年8月3日、<https://www.amnesty.org.uk/press-releases/iran-hangs-teenage-student-first-child-offender-execution-year>. アクセス：2019年2月20日

「イラン：10代の者の絞首刑は国際法に対する恥知らずの違反であることを示す」、2016年8月2日、

<https://www.amnesty.org/en/latest/news/2016/08/iran-hanging-of-teenager-shows-brazen-disregard-for-international-law/>. アクセス：2019年2月20日

「沈黙に向けて設定された法律：市民社会組織のグローバルな弾圧」、2019年2月、

<https://www.amnesty.org/download/Documents/ACT3096472019ENGLISH.PDF>. アクセス：2019年4月1日

「更新：Alireza Tajiki」、2018年1月12日、<https://www.amnesty.org.uk/urgent-alireza-arrested-15-tortured-confession-be-executed-tomorrow>. アクセス：2018年2月20日

AP通信、「イランのトランスジェンダーの人々は fatwa（法解釈）にもかかわらず、差別に直面する」、2018年5月21日、<https://www.apnews.com/a66b2167bb1744e6b12ba8ff1ef97c21>. アクセス：2019年3月4日

デイリー・メール、「イランが31歳の男性を反ゲイ法に違反したこと及びまた2人の15歳の子どもを誘拐したことによって処刑した」、2019年1月28日、<https://www.dailymail.co.uk/news/article-6640561/Iran-hangs-man-violating-anti-gay-laws-kidnapping-two-15-year-old-boys.html>. アクセス：

2019年4月3日

Fox News、「イランは反ゲイの罪により男性を絞首刑にする—欧州は人権侵害に目を背け、米国の制裁を回避しようとする」、2019年2月1日、<https://www.foxnews.com/world/iran-hangs-man-on-anti-gay-charge-as-europe-turns-blind-eye-to-human-rights-abuses-and-tries-to-circumvent-us-sanctions>. ア

クセス：2019年4月3日

フリーダム・ハウス (Freedom House)、「2018年世界の自由 (The Freedom in the World) —イラン」、<https://freedomhouse.org/report/freedom-world/2018/iran>. アクセス：2019年3月26日

Iran Human Rights、「イランの処刑：男が公開絞首刑された」、<https://iranhr.net/en/articles/3611/>. アクセス：2019年4月3日

イラン人権記録センター、

「新イスラム刑法第1巻及び第2巻の英訳」2014年4月4日、<https://iranhrdc.org/english-translation-of-books-i-ii-of-the-new-islamic-penal-code/>. アクセス：2019年2月18日

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

「否定されたアイデンティティ：イランの LGBT コミュニティに対する人権侵害」、2013 年 11 月 7 日、http://www.iranhrdc.org/files.php?force&file=reports_en/Denied-Identity.pdf アクセス：2019 年 2 月 18 日

イラン・レズビアン、トランスジェンダーネットワーク (6Rang)、

「『同性愛者の権利を侵害することは偉大な名誉である』—イランにおける LGBT の人々に反対する公式なヘイトスピーチ」2017 年 12 月、<http://6rang.org/english/wp-content/uploads/2017/12/Official-Hate-Speech-against-LGBT-People-in-Iran.pdf>. アクセス：2019 年 2 月 18 日

「イランにおける LGBT の子どもたちの状況—子どもの権利委員会への提出物」、2015 年 6 月、https://tbinternet.ohchr.org/Treaties/CRC/Shared%20Documents/IRN/INT_CRC_NGO_IRN_19808_E.pdf. アクセス：2019 年 4 月 4 日

クィア難民のためのイラン鉄道 (Iranian Railroad for Queer Refugees)、「イランのクィア・ウォッチ報告書 (Iranian Queer Watch Report)」、2018 年、<http://irqr.net/wp-content/uploads/2018/09/IQW-Report.pdf>. アクセス：2019 年 2 月 21 日

イランの正義 (JFI) 及びイラン・レズビアン、トランスジェンダーネットワーク (6Rang)、「病的なアイデンティティ、麻痺した身体：イランにおけるゲイ、レズビアン、及びトランスジェンダーの人々に対する人権侵害」、2014 年 6 月、<http://6rang.org/english/wp-content/uploads/2014/06/Pathologizing-Identities-Paralyzing-Bodies.pdf>. アクセス：2019 年 2 月 26 日

NBC ニュース「イランは sodomy、殺人により 15 歳で逮捕された Alireza Tajiki を処刑した」、2017 年 8 月 10 日、<https://www.nbcnews.com/news/world/iran-executes-alireza-tajiki-who-was-arrested-age-15-sodomy-n791421>. アクセス：2019 年 2 月 20 日

アウトライト・アクション・インターナショナル (OutRight Action International) 、

「人権報告書—イランにおいてトランスジェンダーであること」、2016 年 10 月、<https://www.outrightinternational.org/sites/default/files/OutRightTransReport.pdf>. アクセス：2019 年 2 月 19 日

イラン：イランの sodomy 法—行間を読む、2012 年 8 月 14 日、<https://www.outrightinternational.org/content/iran-iran%E2%80%99s-sodomy-law-reading-between-lines> アクセス：2019 年 2 月 26 日

Sexuality Policy Watch、「イランにおける 2018 年のプライドデイ」、2018 年 7 月 27 日、<https://sxpolitics.org/iran-pride-day-in-2018/18738>. アクセス：2019 年 4 月 2 日

Small Media、「沈黙を破る—イランにおけるデジタル・メディア及び LGBTIQ の権利のための闘争」、2018 年 5 月、https://smallmedia.org.uk/media/projects/files/BreakingTheSilence_2018.pdf. アクセス：2019 年 2 月 18 日

Special Broadcasting Service : SBS (特別放送サービス)、「LGBT+イラン人たちは『レインボウ・フライデー』と共にプライドを秘密裏に祝うことになっている」、2017 年 7 月 28 日、<https://www.sbs.com.au/topics/sexuality/agenda/article/2017/07/28/lgbt-iranians-are-set-celebrate-pride-secret-rainbow-friday>. アクセス：2019 年 4 月 2 日

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

The Guardian (ガーディアン)、「ゲイ及びトランスジェンダーとして存在することが最も困難な場所は世界のどこか?」、2017年3月1日、<https://www.theguardian.com/global-development-professionals-network/2017/mar/01/where-are-the-most-difficult-places-in-the-world-to-be-gay-or-transgender-lgbt>. アクセス：2019年2月20日

Quartz、「『誰もが私を聖者のように扱う』—イランには、トランスジェンダーの者として生き残るための唯一の手段がある」、2017年4月19日、<https://qz.com/889548/everyone-treated-me-like-a-saint-in-iran-theres-only-one-way-to-survive-as-a-transgender-person/>. アクセス：2019年3月4日

米国国務省、「2018年の米国国務省の人権慣行に関する国別報告書—イラン」、2019年3月、<https://www.state.gov/documents/organization/289449.pdf>. アクセス：2019年3月28日

[目次に戻る](#)

参照されたが引用されない出典

Gay Star News、「イランのLGBTIはPrideを秘密裏に数年間にわたり開催した後に、初めて誇り高く行進する」2017年7月27日、<https://www.gaystarnews.com/article/holding-pride-secret-years-iran-lgbtis-will-march-proudly-first-time/#gs.47itfp>. アクセス：2019年4月2日

ヒューマン・ライツ・ウォッチ、「我々は埋没した世代である」、2010年12月15日、<https://www.hrw.org/report/2010/12/15/we-are-buried-generation/discrimination-and-violence-against-sexual-minorities#>. アクセス：2019年2月18日

国際人権連盟、「Alireza Tajikiは殺人により15歳で告発され、明日8月10日に処刑される」、2017年8月9日、<https://www.fidh.org/en/region/asia/iran/10-august-2017-alireza-tajiki-accused-of-murder-at-15-facing#>. アクセス：2019年2月21日

国際ゲイとレズビアン人権委員会 (International Gay and Lesbian Human Rights Commission)、「イランにおけるレズビアン、ゲイ、バイセクシャル及びトランスジェンダーの権利—宗教的、法的及び文化的視点からの分析」、2015年7月6日、http://iran.outrightinternational.org/wp-content/uploads/LGBTRightsInIran_EN.pdf. アクセス：2019年2月19日

国際レズビアン・ゲイ協会 (International Lesbian, Gay, Bisexual, Trans and Intersex Association : ILGA)、国家支援による同性愛嫌悪、諸法の世界的調査：同性愛の犯罪化、保護及び認定、2017年5月、以下により参照可能：

https://ilga.org/downloads/2017/ILGA_State_Sponsored_Homophobia_2017_WEB.pdf. アクセス：2019年2月20日

Iranwire、「Hassan Afshar、ティーンエイジャーがレイプ犯罪により処刑された」、2016年8月12日、<https://en.iranwire.com/en/features/1946>. アクセス：2019年2月22日

Mediafugees、「イランにおける同性愛：分断された社会」2018年9月25日、<https://mediafugees.com/en/homosexuality-iran-divided-society>. アクセス：2019年3月28日

NBC ニュース「イランはsodomy、殺人により15歳で逮捕されたAlireza Tajikiを処刑した」、2017年8月10日、<https://www.nbcnews.com/news/world/iran-executes-alireza-tajiki-who-was-arrested-age-15-sodomy-n791421>. アクセス：2019年2月21日

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

Queerty、「イランのLGBTIは「秘密のプライド（Secret Pride）」を秘密裏に数年間にわたり開催した後に、公衆の面前で初めて誇り高く行進する」2017年7月27日、<https://www.queerty.com/holding-secret-pride-years-iranian-lgbtqs-plan-publicly-march-first-time-20170727>. アクセス：2019年4月2日
The Guardian（ガーディアン）、「サウジアラビア及びイランにおける処刑—人数」、2016年1月4日、<https://www.theguardian.com/news/datablog/2016/jan/04/executions-in-saudi-arabia-iran-numbers-china>. アクセス：2019年2月22日
The Jerusalem Post、「イランは国際法に違反してティーンエイジャーのゲイを処刑する」、2016年8月4日、<https://www.jpost.com/Middle-East/Iran-News/Iran-executes-gay-teenager-in-violation-of-international-law-463234>. アクセス：2019年2月21日

タイムズ、

「イランは殺人のために15歳で逮捕されたAli Reza Tajikiを断手刑にした」、2017年8月11日、<https://www.thetimes.co.uk/article/iran-hangs-ali-reza-tajiki-who-was-arrested-for-murder-at-the-age-15-5h8b70d60>. アクセス：2019年2月21日

「テヘランは10代の少年をゲイであるために断手刑にする」、2016年8月4日、<https://www.thetimes.co.uk/article/tehran-hangs-teenage-boy-for-being-gay-7t2pv97mq>. アクセス：2019年2月19日

Vocativ、「危険の中で生きる：それはイランでゲイとして生きることのようである」、2014年12月23日、<https://www.vocativ.com/culture/lgbt/iran-gay-laws/?page=all>. アクセス：2019年2月20日
ワシントンブレード（Washington Blade）「報告書：sodomyにより有罪とされたイラン人の男性が処刑された」、2016年8月3日、<https://www.washingtonblade.com/2016/08/03/report-iranian-man-convicted-sodomy-executed>. アクセス：2019年2月20日

[目次に戻る](#)

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

バージョン管理

クリアランス

下記は本ノートが有効となる時点に関する情報である。

- 版 3.0
- 2019 年 6 月 21 日から有効

前回のバージョンからの変更

CPIN は現在の出身国情報を反映するように更新された。

[目次に戻る](#)